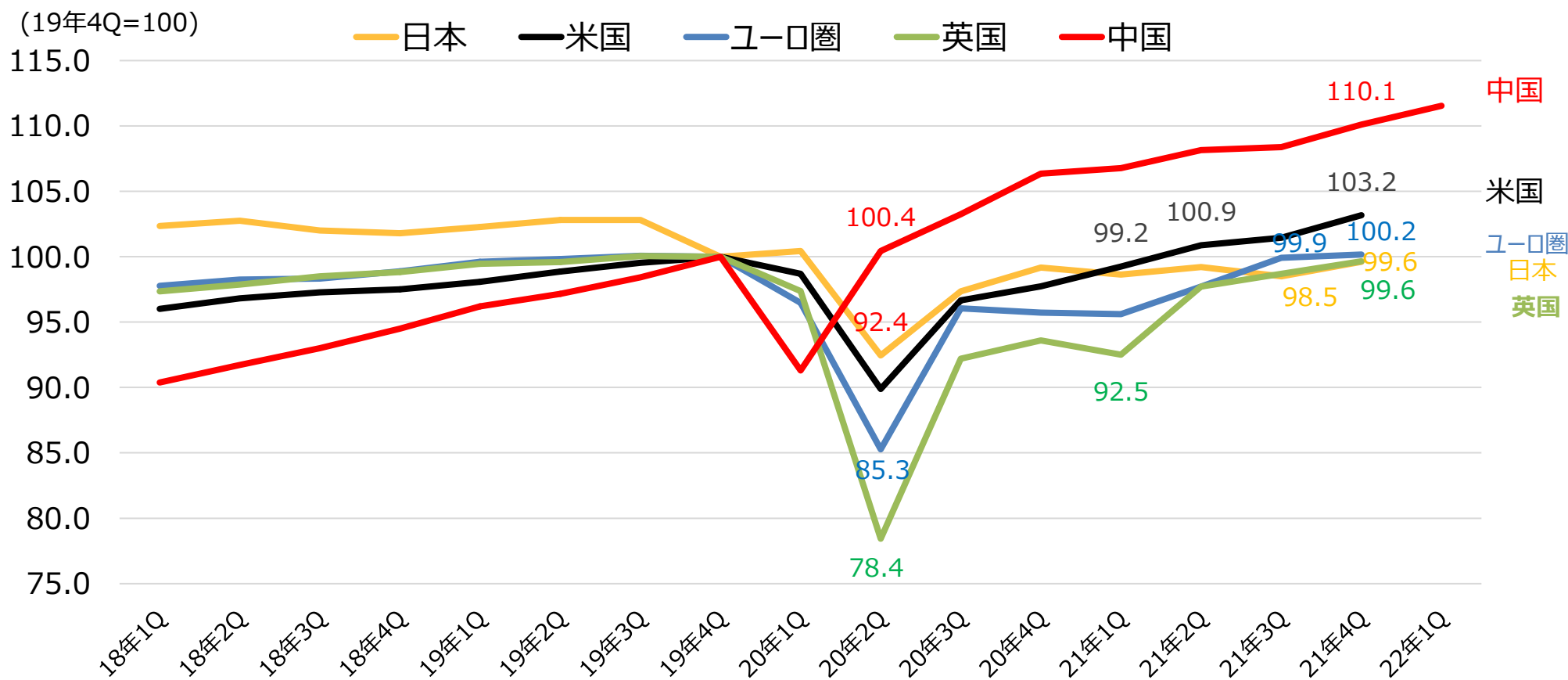


内外経済動向

2022年4月

2019年末以降の世界各国・地域の経済活動水準（四半期実質GDP）の推移

- 2021年10-12月期は各国ともプラス成長。
- 10-12月期時点でコロナ前を上回って回復している主要国は中国、米国、ユーロ圏。
- 日本は、昨年4-6月期の落込み幅が欧米に比べて小さかったが、1-3月期にマイナス成長、4-6月期がほぼ横ばい、7-9月期は再びマイナス成長。10-12月期はプラスに転換したが、引き続きコロナ前の水準を下回る。



(資料) 各国政府資料

日本經濟

美国經濟

中国經濟

欧州經濟

3月月例経済報告の概要（3/25公表）

<総括判断>

今月

景気は、持ち直しの動きが続いているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。

<先行き>

今月

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。
ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。

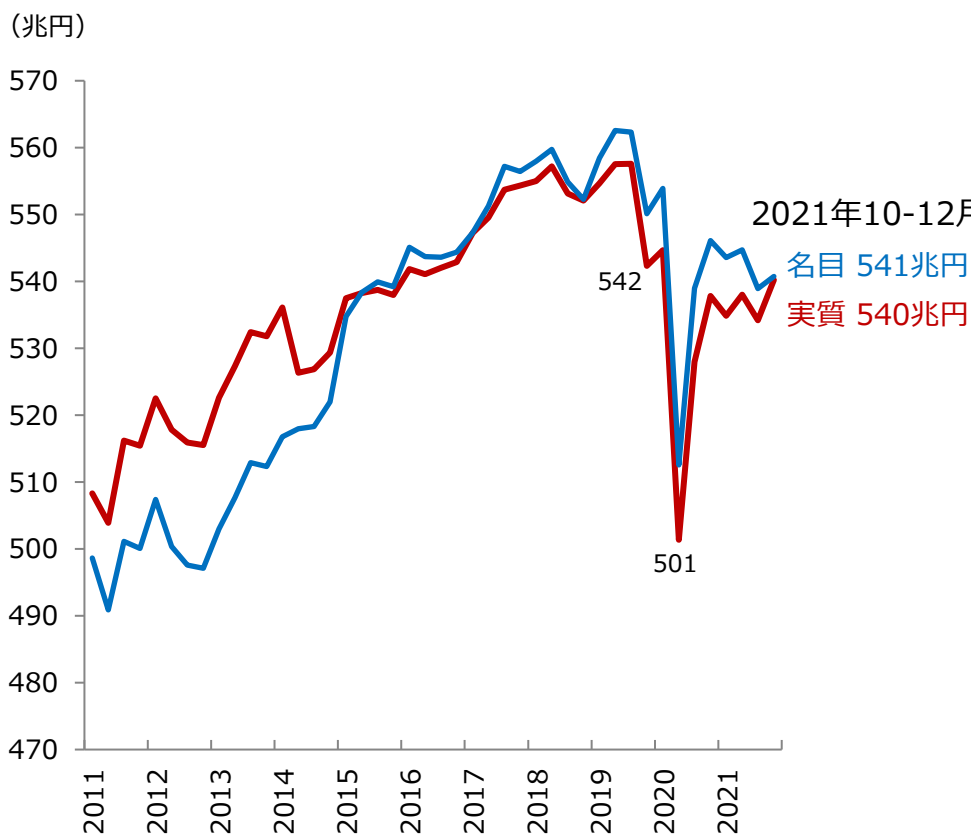
先月

先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動を継続していく中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。
ただし、感染拡大による影響や供給面での制約、原材料価格の動向による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

GDP

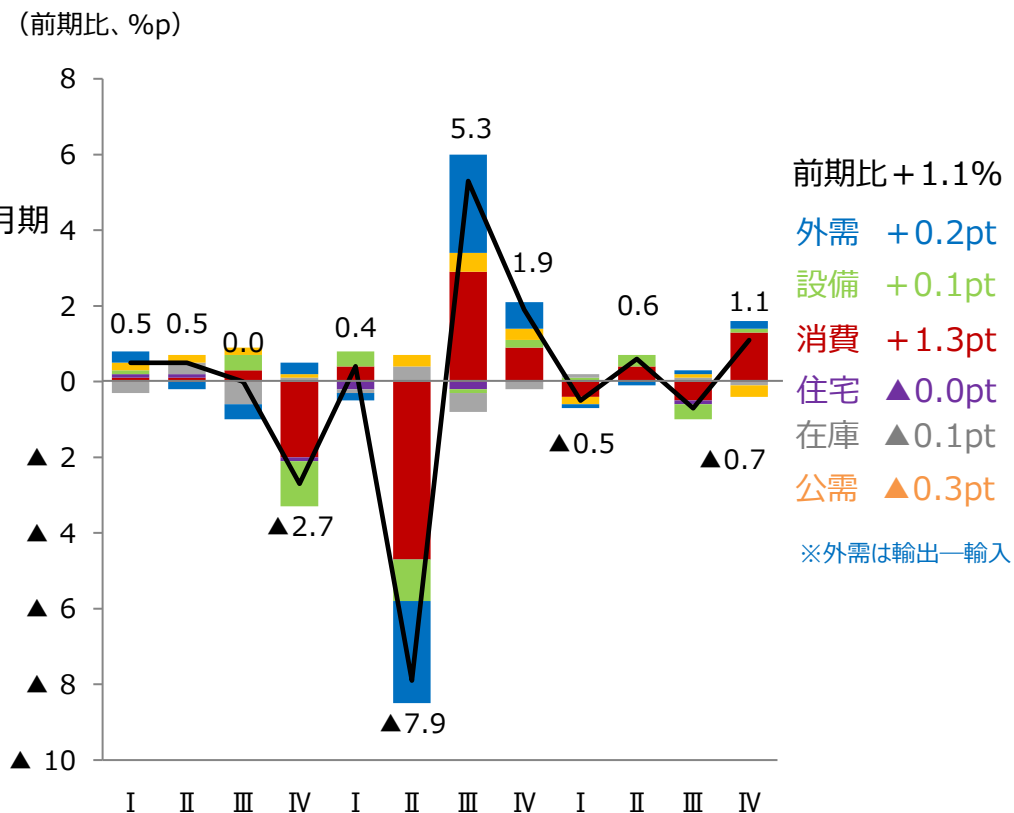
- 2021年10-12月期実質GDP成長率は、消費や設備投資の増加から、前期比+1.1%（年率+4.6%）と2四半期ぶりのプラス成長。
- 実質で540兆円、名目で541兆円。

GDPの推移



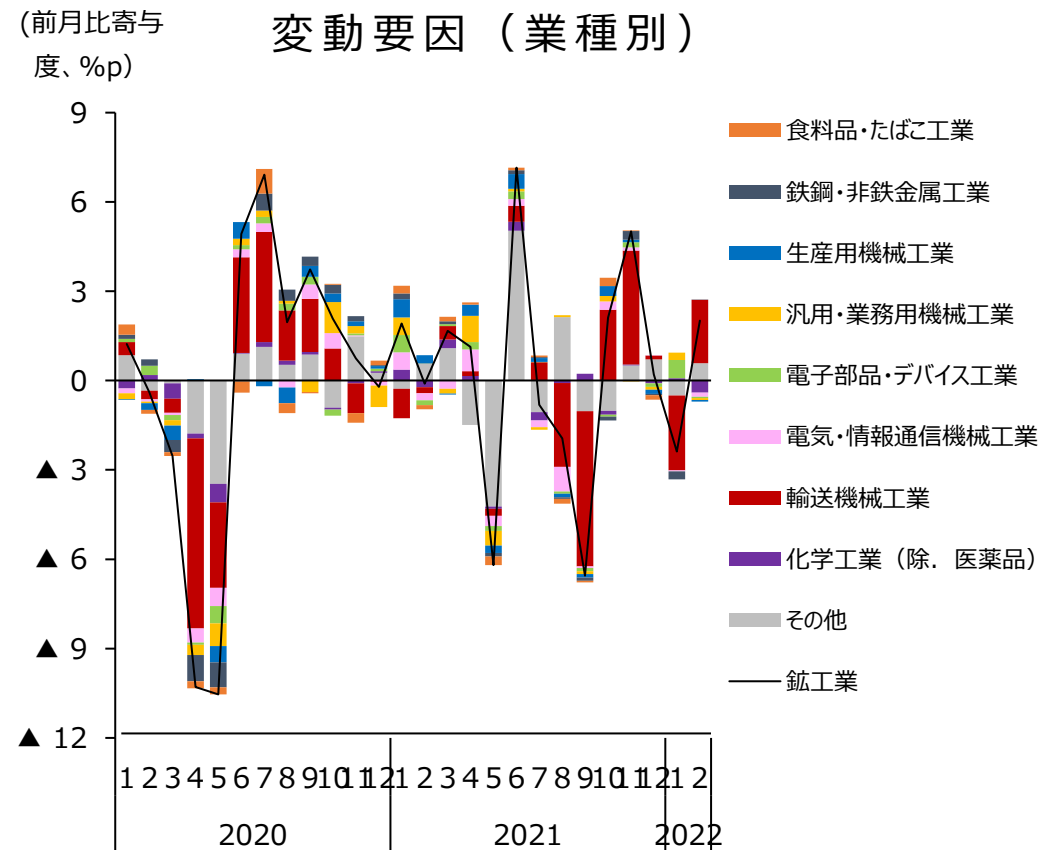
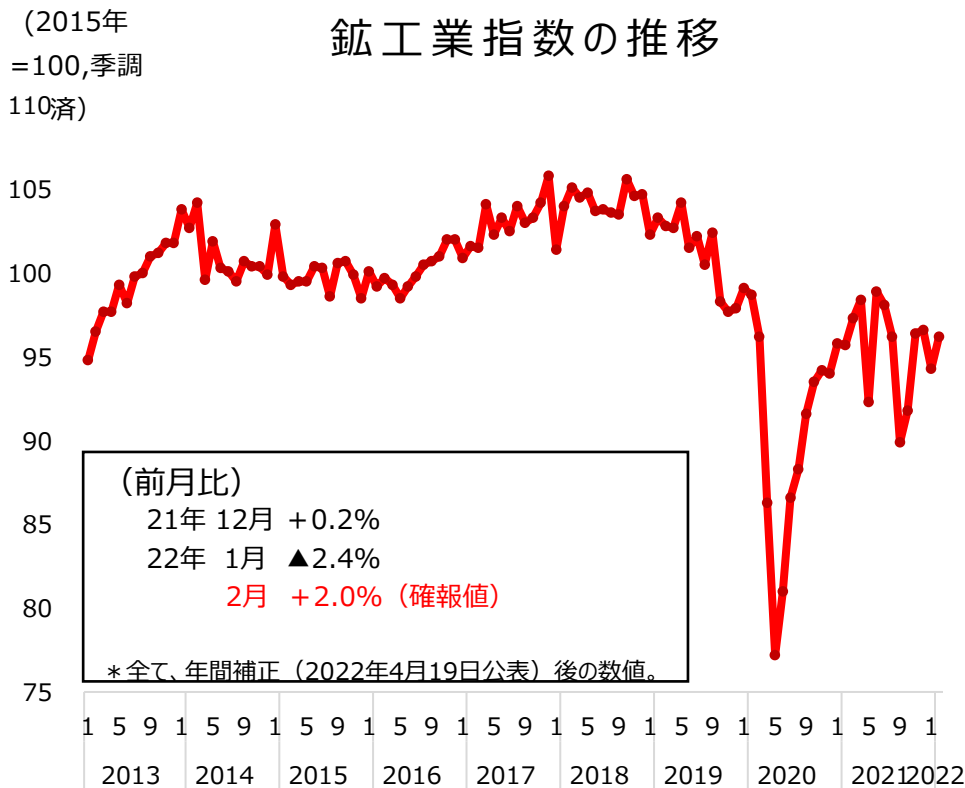
(資料) 内閣府「国民経済計算」

実質GDPの変動要因



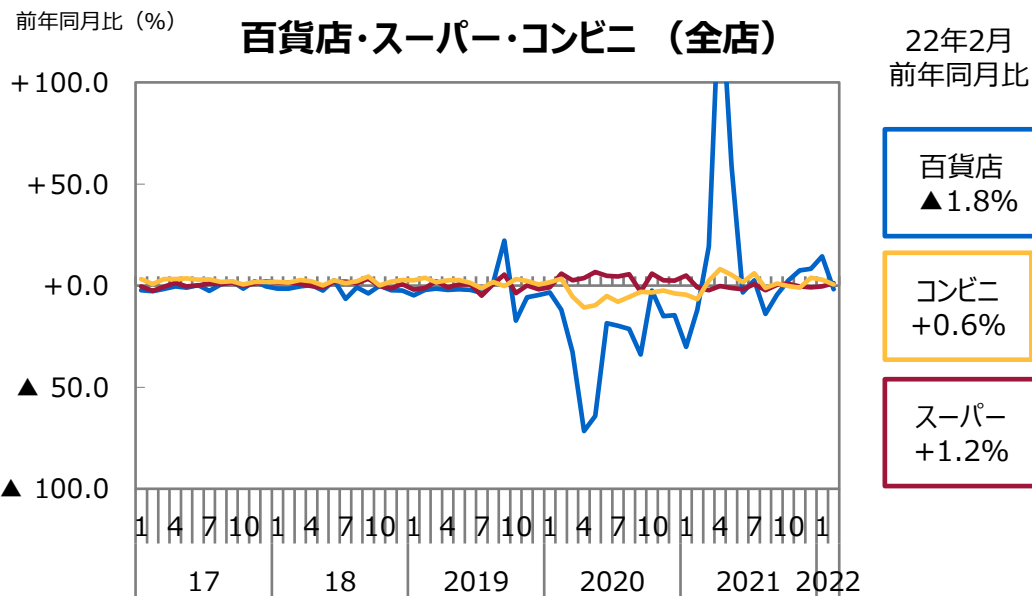
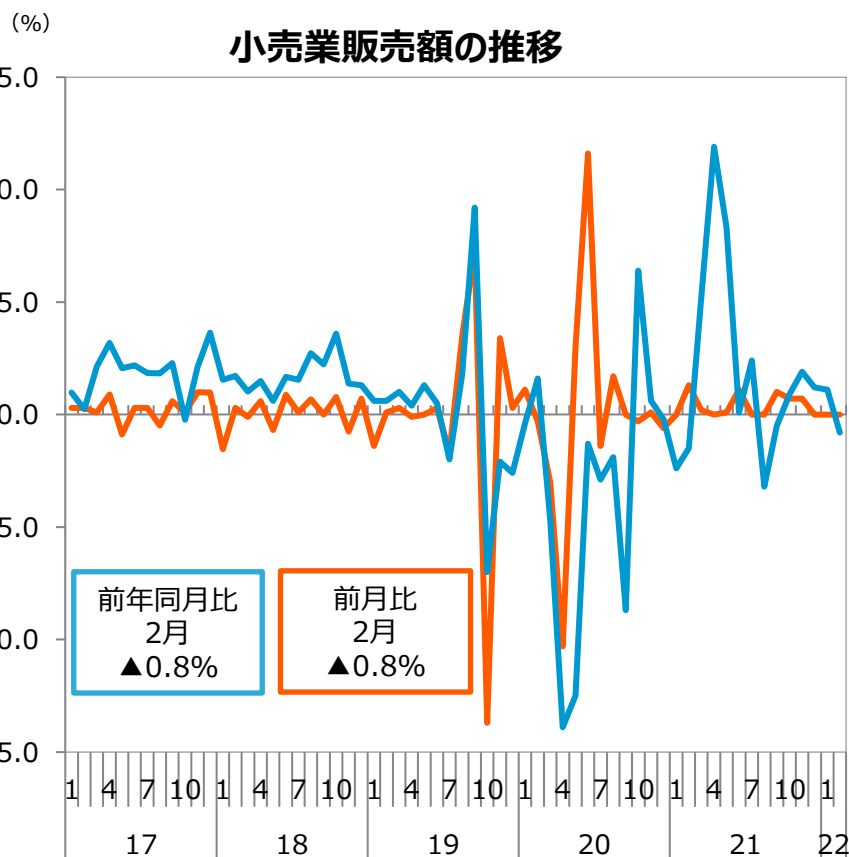
生産

- 生産は、1月は、感染症の急拡大や部材供給不足の影響を受けた自動車工業が全体を下押ししたが、2月は、自動車工業が上昇したことで、2ヶ月ぶりに上昇。
- 先行きは、電気・情報通信機工業（3月・4月）、輸送機械工業や生産用機械工業（4月）等を中心に上昇が見込まれる。ならしてみれば、生産は持ち直しの動きがみられる。



消費①

- 2月の小売業販売額は、11兆5370億円と前年同月比▲0.8%（5か月ぶりの減少）。季節調整済指数では前月比▲0.8%（3ヶ月連続の減少）。
- 前年同月比が減少となった主な業種は、自動車小売（▲14.8%）など。



小売業（内訳）の増減率(2022年2月速報)

単位：(%)

	小売業	各種商品 小売業	織物・衣 服・身の回 り品小売業	飲食料品 小売業	自動車 小売業	機械器具 小売業	燃料 小売業	医薬品・ 化粧品 小売業	その他 小売業
前年同月比	▲0.8	▲1.6	▲2.7	▲0.6	▲14.8	▲8.3	21.6	3.2	▲1.0
前月比	▲0.8	4.4	▲5.8	1.3	2.1	▲1.1	0.4	▲1.2 ※	

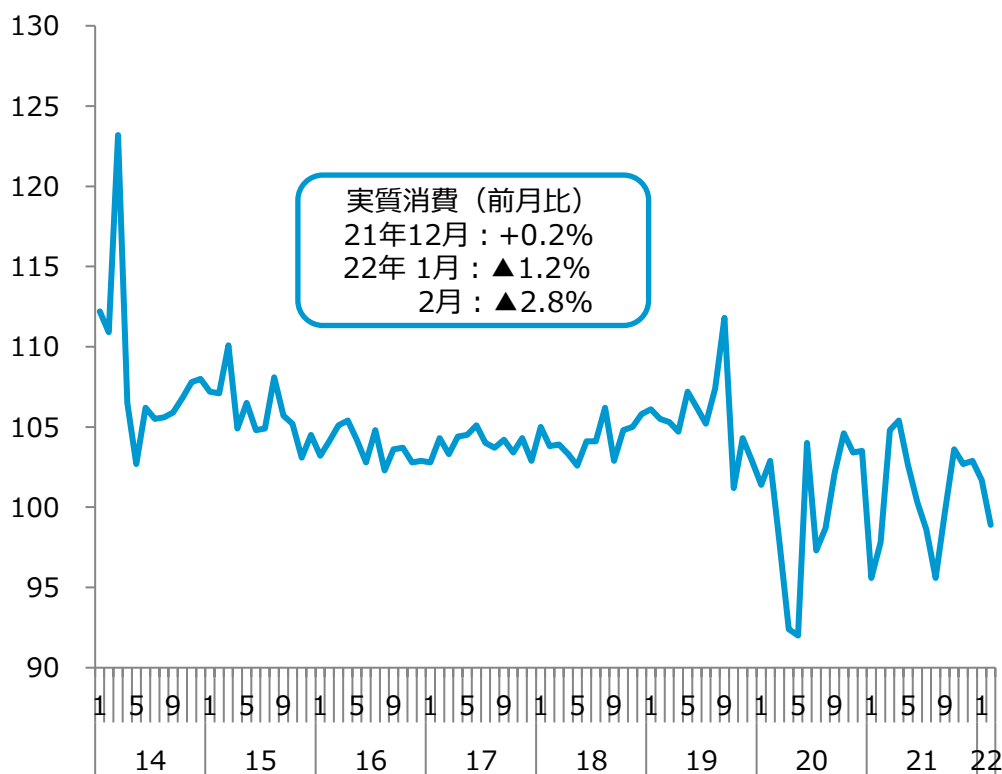
※季節調整済指数前月比は、「医薬品・化粧品小売業を含むその他小売業」を採用。

(資料) 経済産業省「商業動態統計」2022年3月30日公表

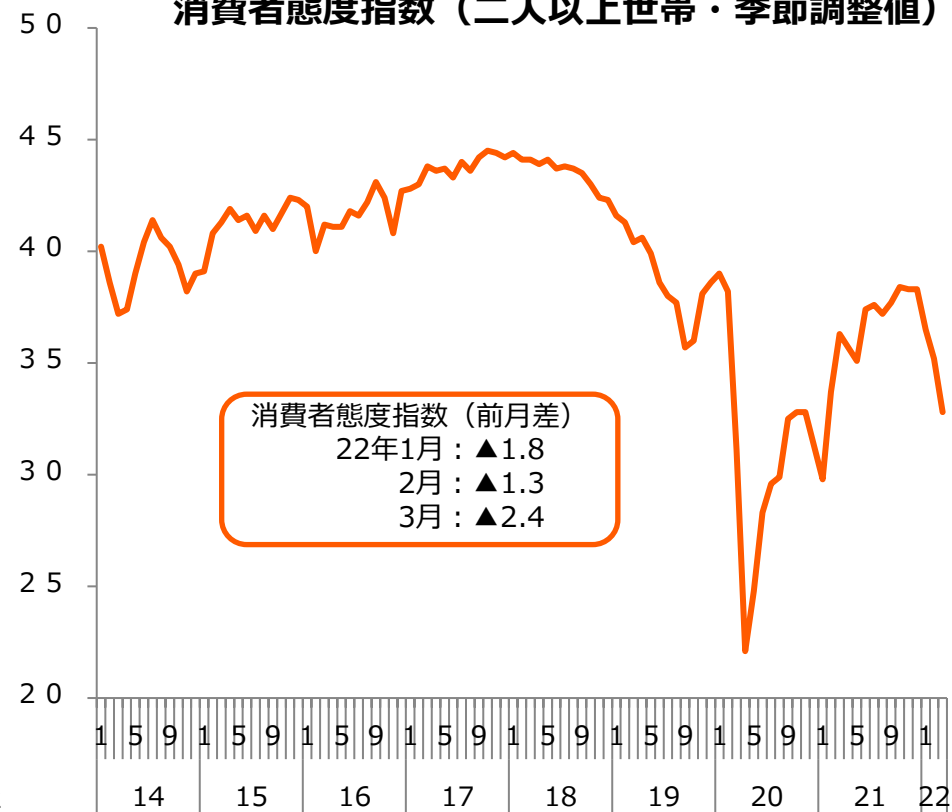
消費②

- 2月の実質消費支出は前年同月比+1.1%と2か月連続の増加。前月比は▲2.8%と2か月連続の減少。
- 3月の消費者マインドの基調判断は、弱い動きがみられる。（下方修正。前月の表現：弱含んでいる。）

(2020年=100) 実質消費支出 (二人以上世帯・季節調整値)



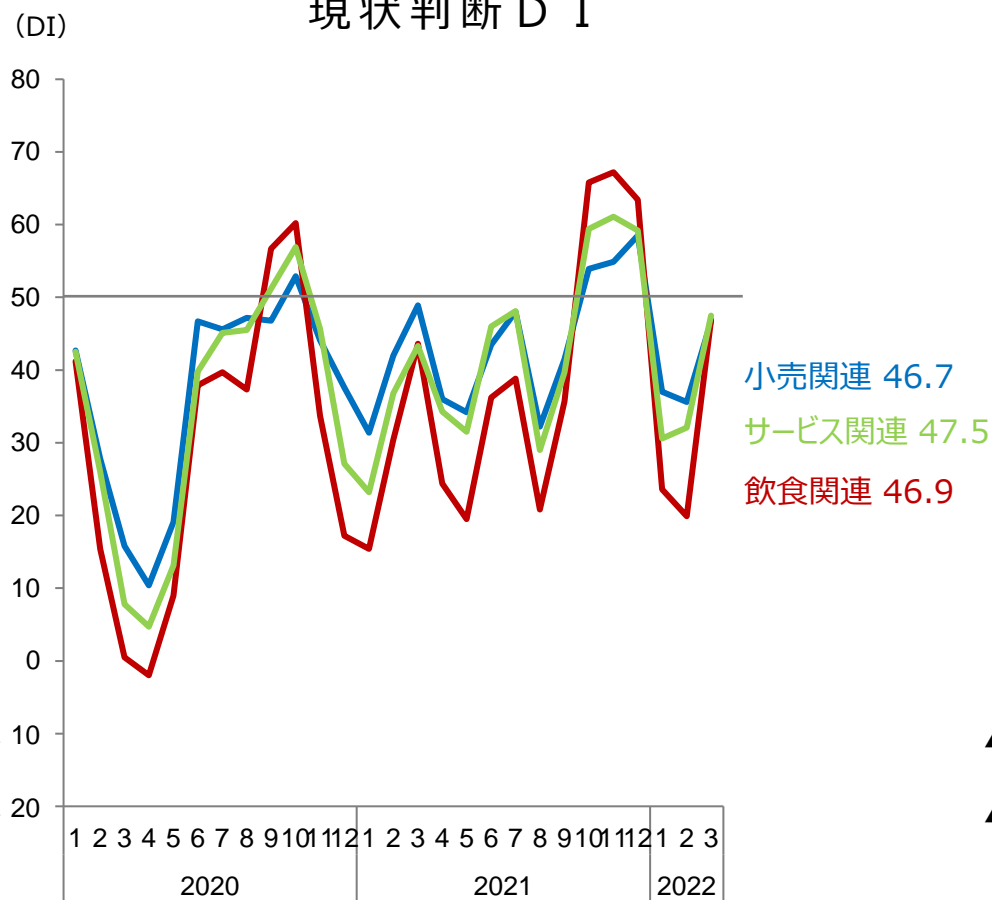
(ポイント) 消費者態度指数 (二人以上世帯・季節調整値)



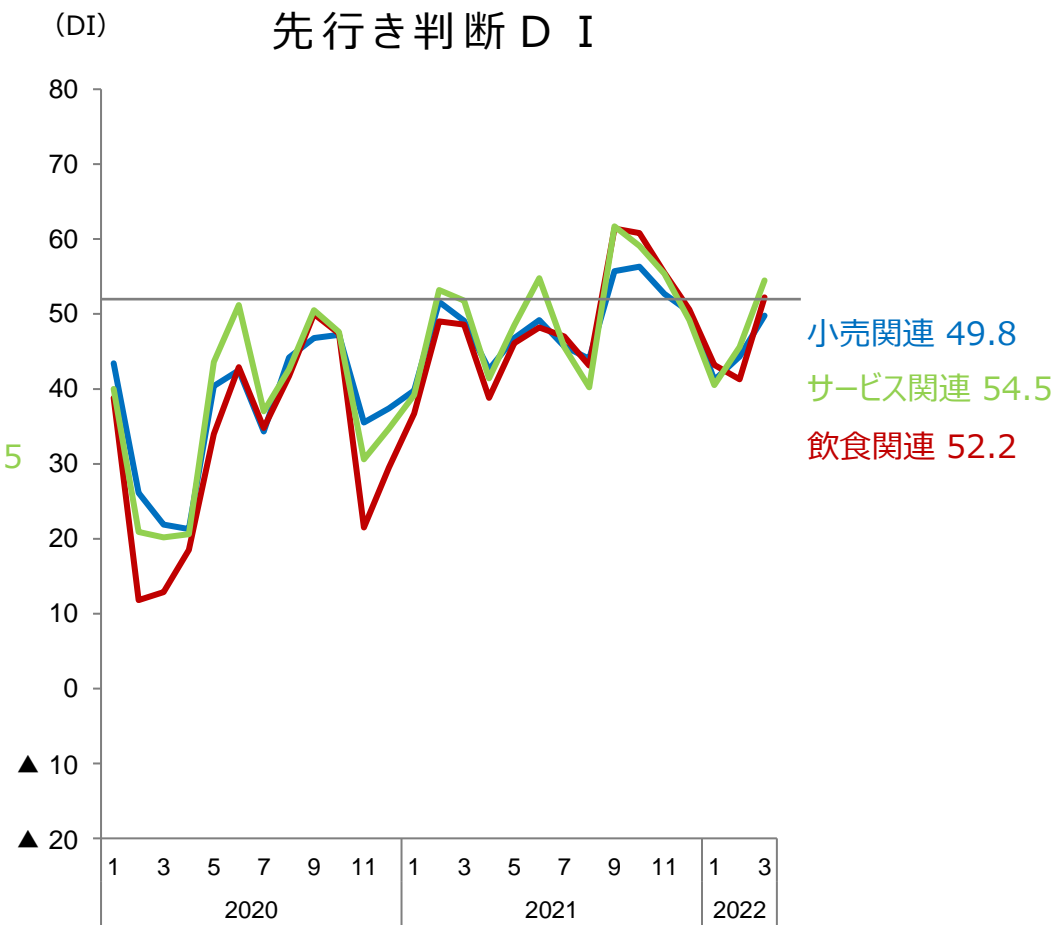
街角景気（家計動向）

- 3月の家計の現状判断DIはサービス関連、小売関連、飲食関連のいずれも上昇。
- 先行き判断DIについても、サービス関連、小売関連、飲食関連のいずれも上昇した。

現状判断DI



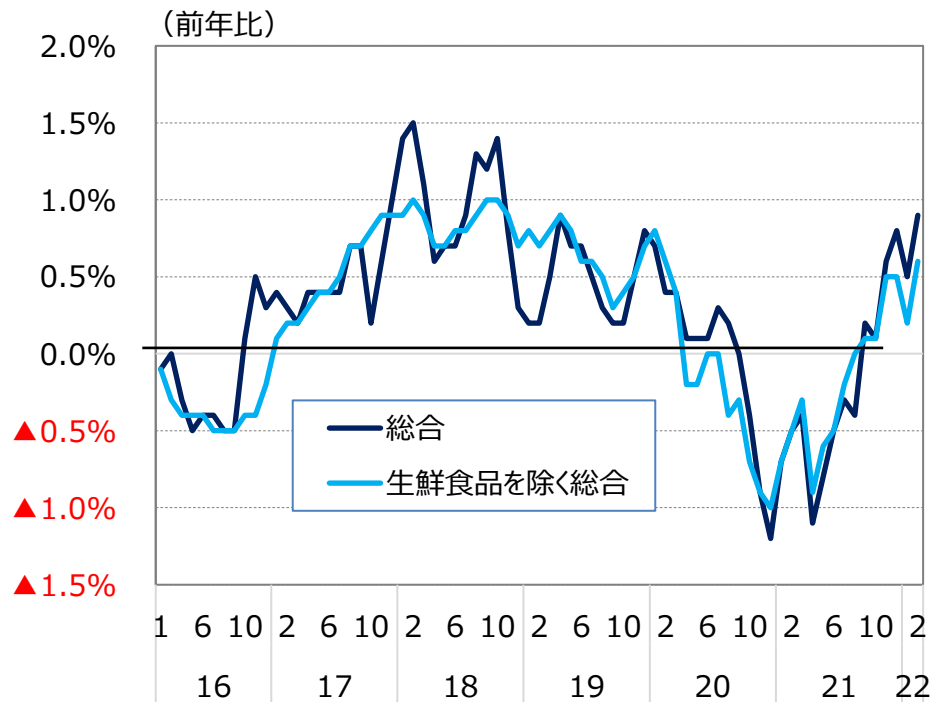
先行き判断DI



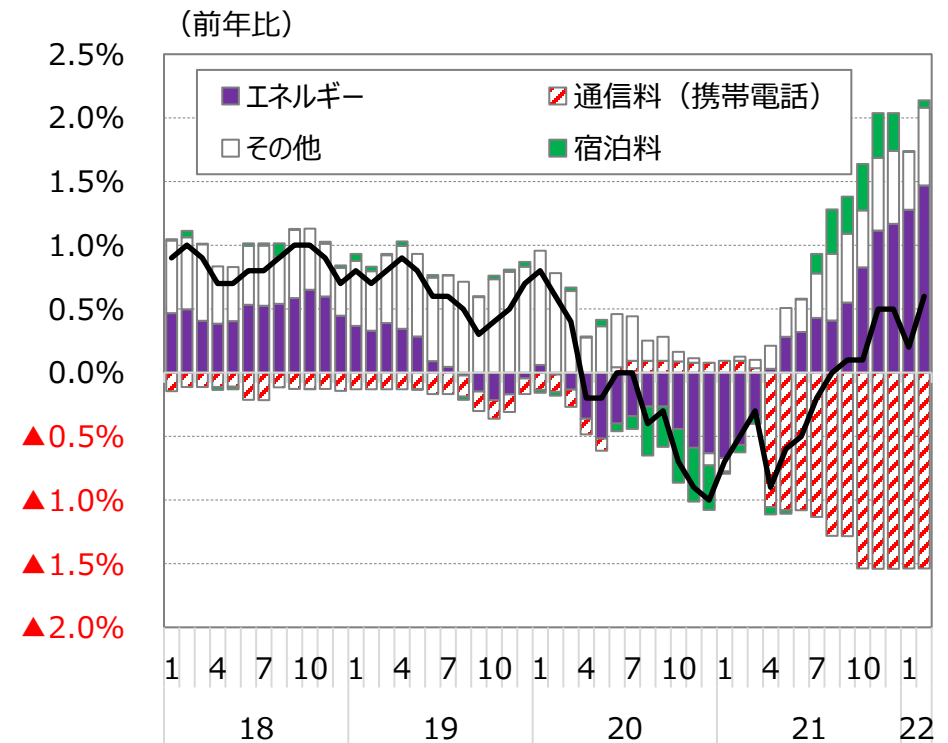
物価①

- 2022年2月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合）は、前年比+0.6%（1月：同+0.2%）と6カ月連続のプラスとなった。
- 前月までと同様、携帯電話料金の引下げが物価を下押しした一方、ガソリン等エネルギー価格の上昇が物価の押し上げに寄与。

消費者物価指数の推移



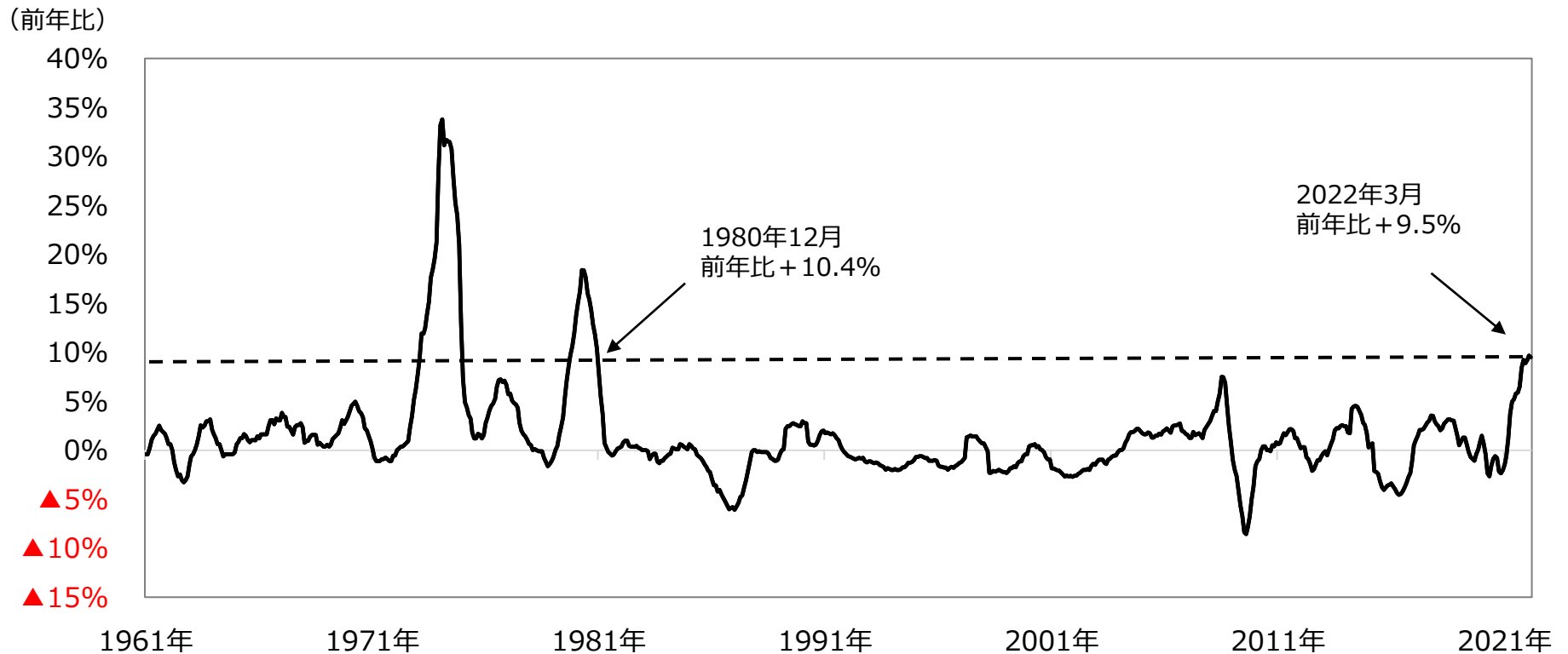
生鮮食品を除く総合指数の推移



物価②

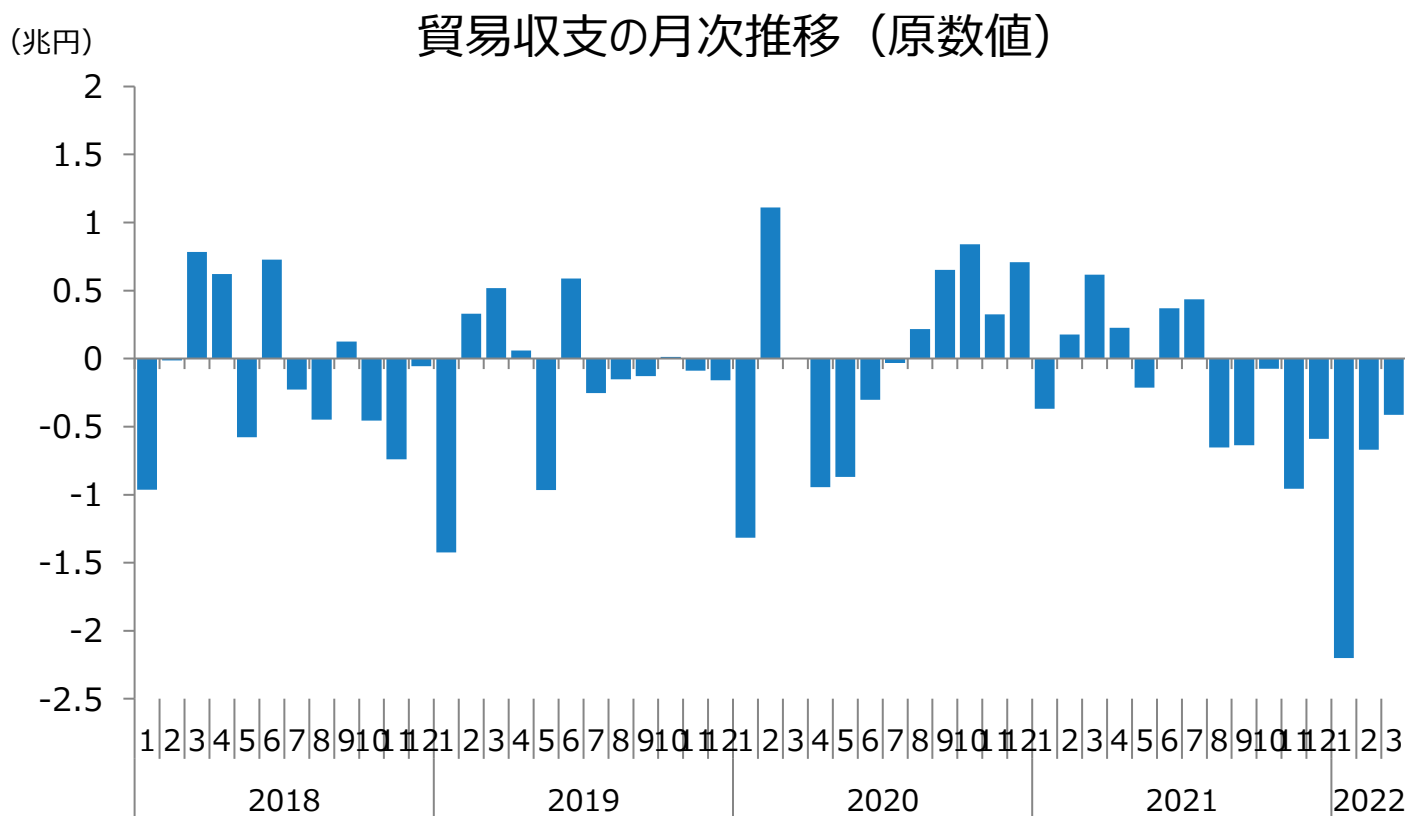
- 2022年3月の企業物価指数は前年同月比+9.5%と、約41年ぶりの上昇率。

企業物価指数の推移



貿易

- 2022年3月の貿易収支は、▲4124億円の赤字。前年と比べ輸入が輸出以上に増加したことで赤字幅は拡大。
- 輸出金額は8兆4609億円(前年同月比+14.7%)、輸入金額は8兆8733億円(同+31.2%)。



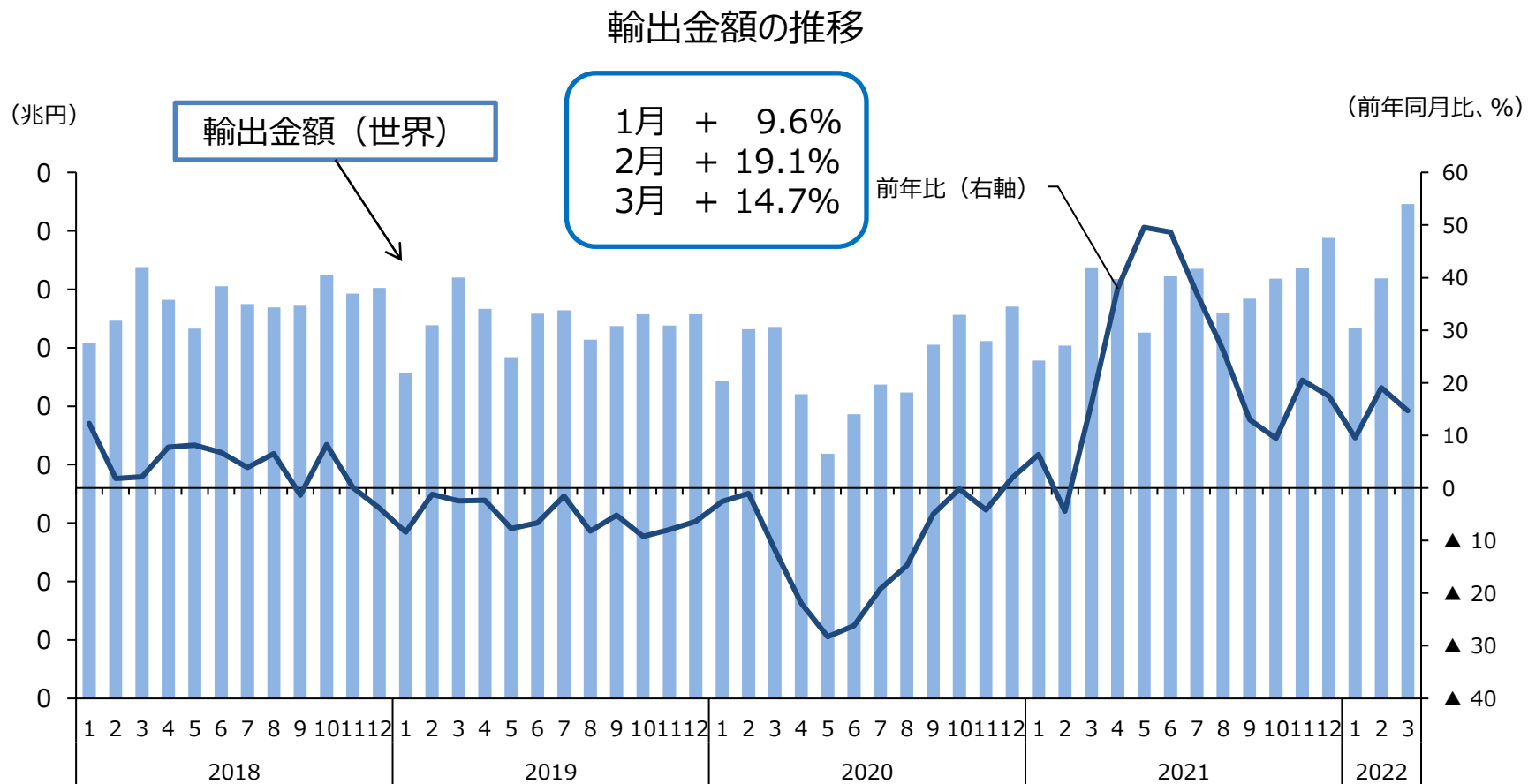
貿易統計動向主要品目
(対前年同月比)

- ・輸出金額
半導体等製造装置、鉄鋼、
鉍物性燃料などが増加
- ・輸入金額
原粗油、石炭、液化天然ガ
ス等が増加

(資料) 財務省「貿易統計」2022年4月20日公表

輸出①

- 2022年3月の輸出金額は前年同月比+14.7%と13か月連続の増加。

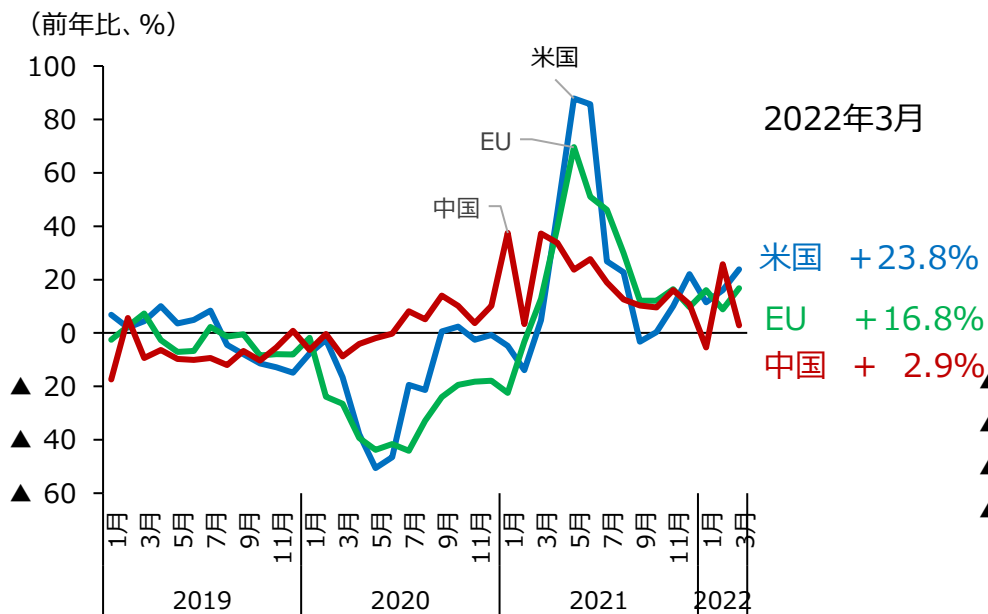


(資料) 財務省「貿易統計」2022年4月20日公表

輸出②

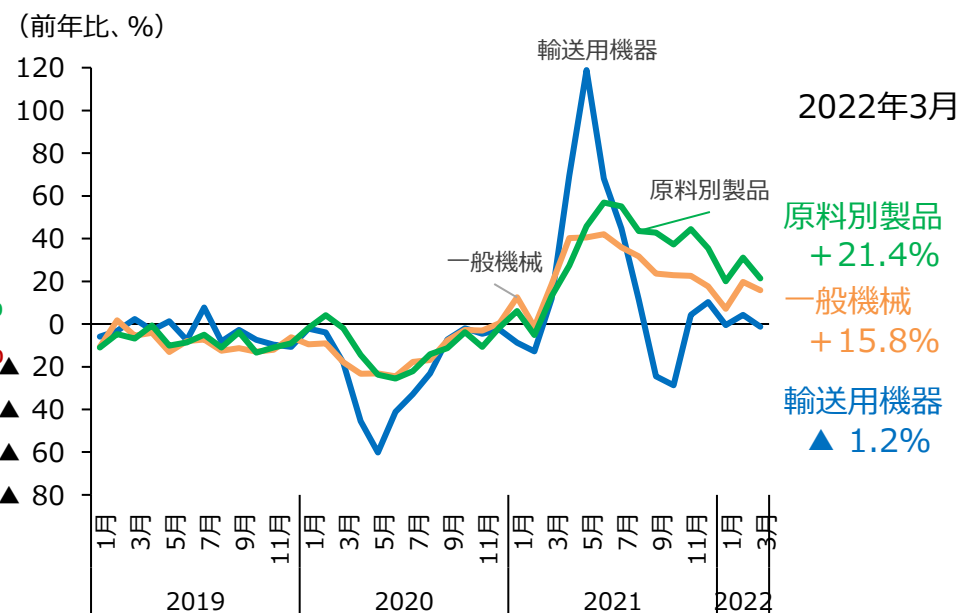
- 主要国・地域別では、中国向け、米国向け、EU向けとも増加。
- 財別では、一般機械、原料別製品などが増加。一方、輸送用機器が2か月ぶりの減少。

地域別



(資料) 財務省「貿易統計」2022年4月20日公表
対EUは、英国を除く27か国ベース。

財別

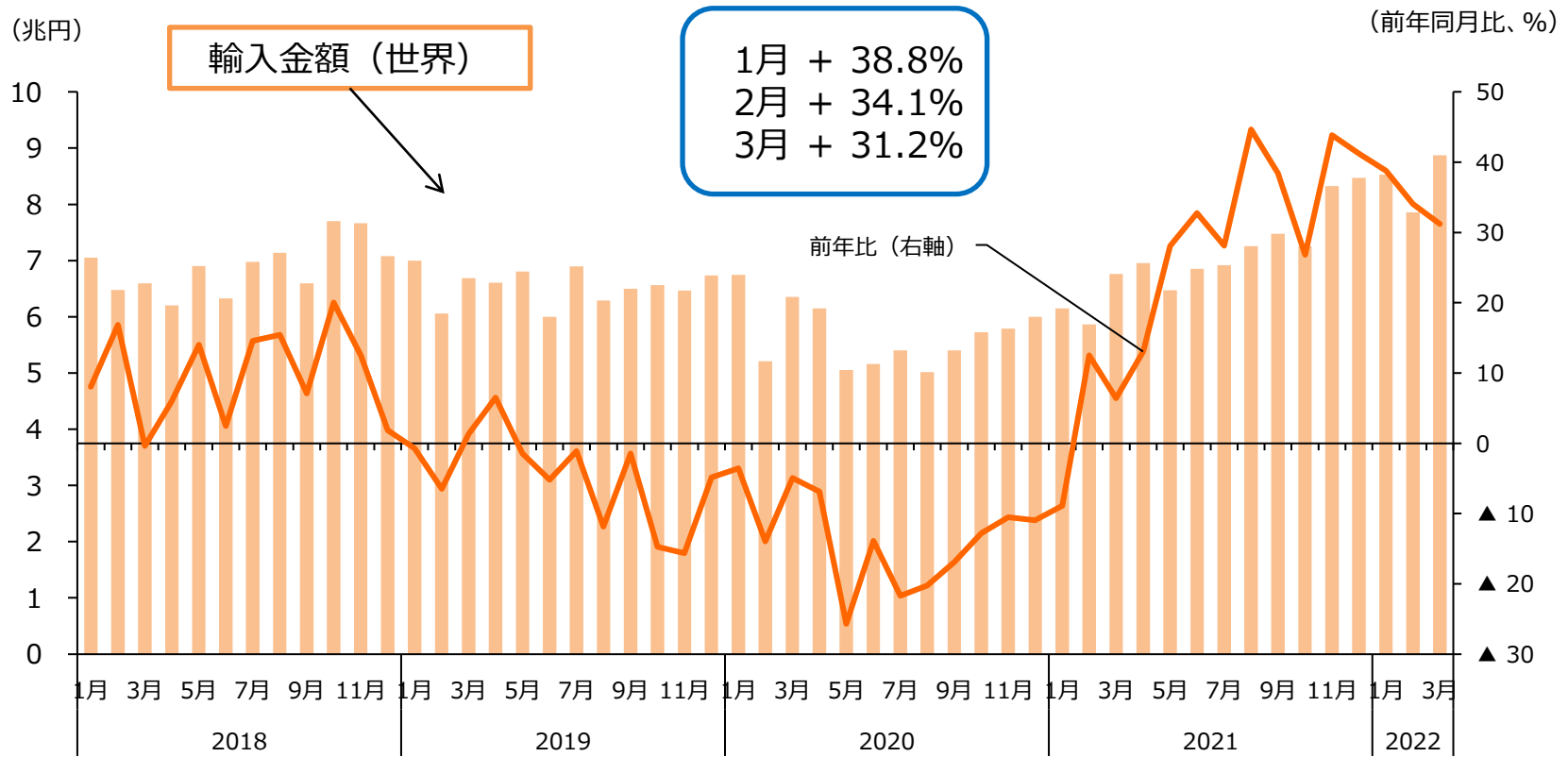


(資料) 財務省「貿易統計」2022年4月20日公表

輸入

- 2022年3月の輸入金額は前年同月比+31.2%と14か月連続の増加。

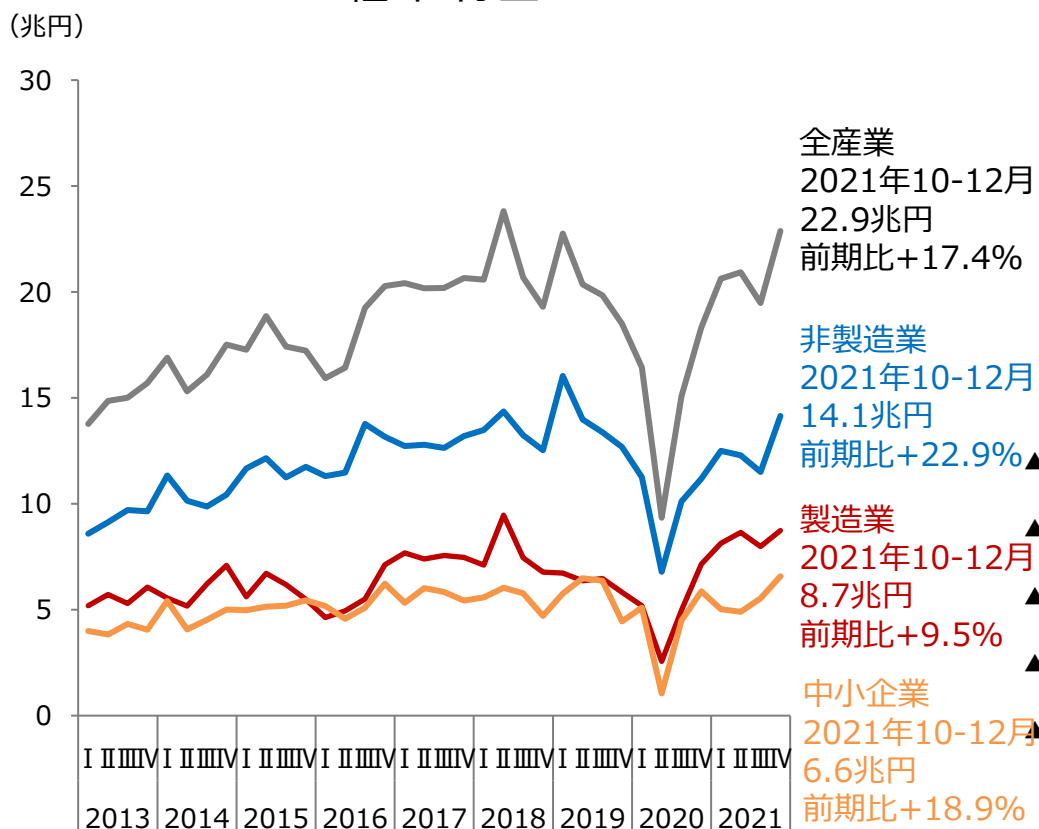
輸入金額の推移



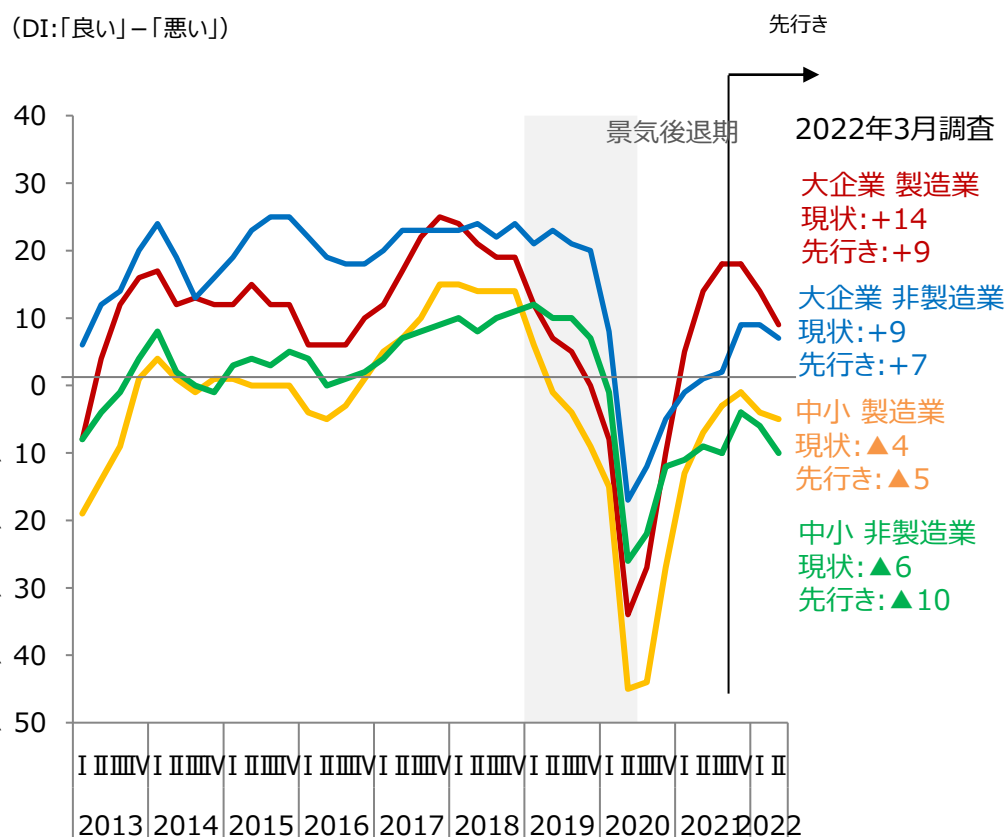
企業収益 業況判断

- 2021年10-12月期の経常利益は、製造業は前期比+9.5%と2四半期ぶりの増加。非製造業は前期比+22.9%と3四半期ぶりの増加。
- 業況は中小企業をはじめ、足下で悪化。先行きについても全体的に悪化する見込み。

経常利益



企業の業況判断DI



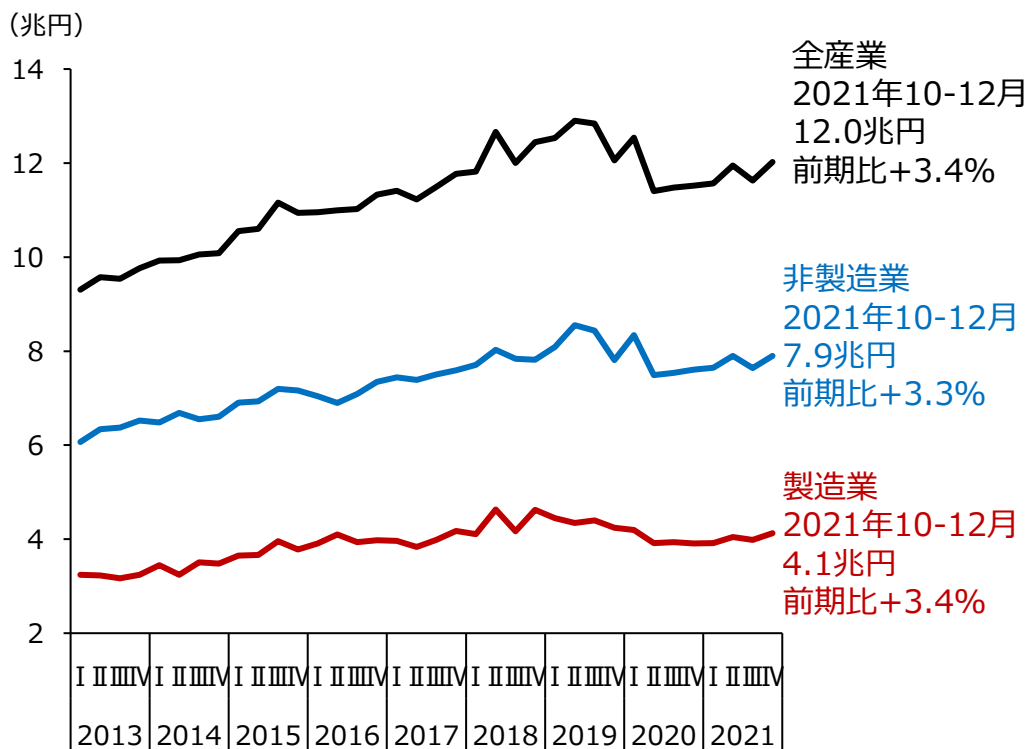
(資料) 財務省「法人企業統計季報」3月2日公表
(注) 季節調整済系列
金融業、保険業を除く。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査(3月調査)」

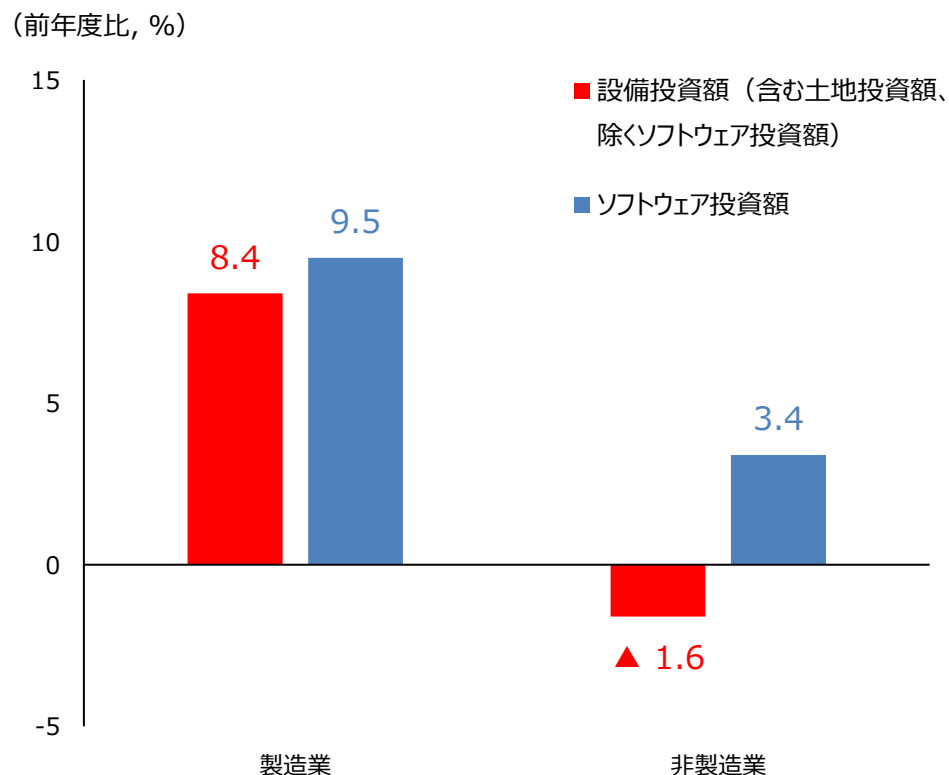
設備投資

- 2021年10-12月期の設備投資は製造業で前期比+3.4%、非製造業で同+3.3%と、堅調に推移。
- 2022年度の設備投資計画は製造業で前年度比+8.4%、非製造業で同▲1.6%と、非製造業で前年度比マイナスの計画。ソフトウェア投資額は製造業、非製造業ともに高い伸びが見込まれる。

設備投資



設備投資計画（大企業）

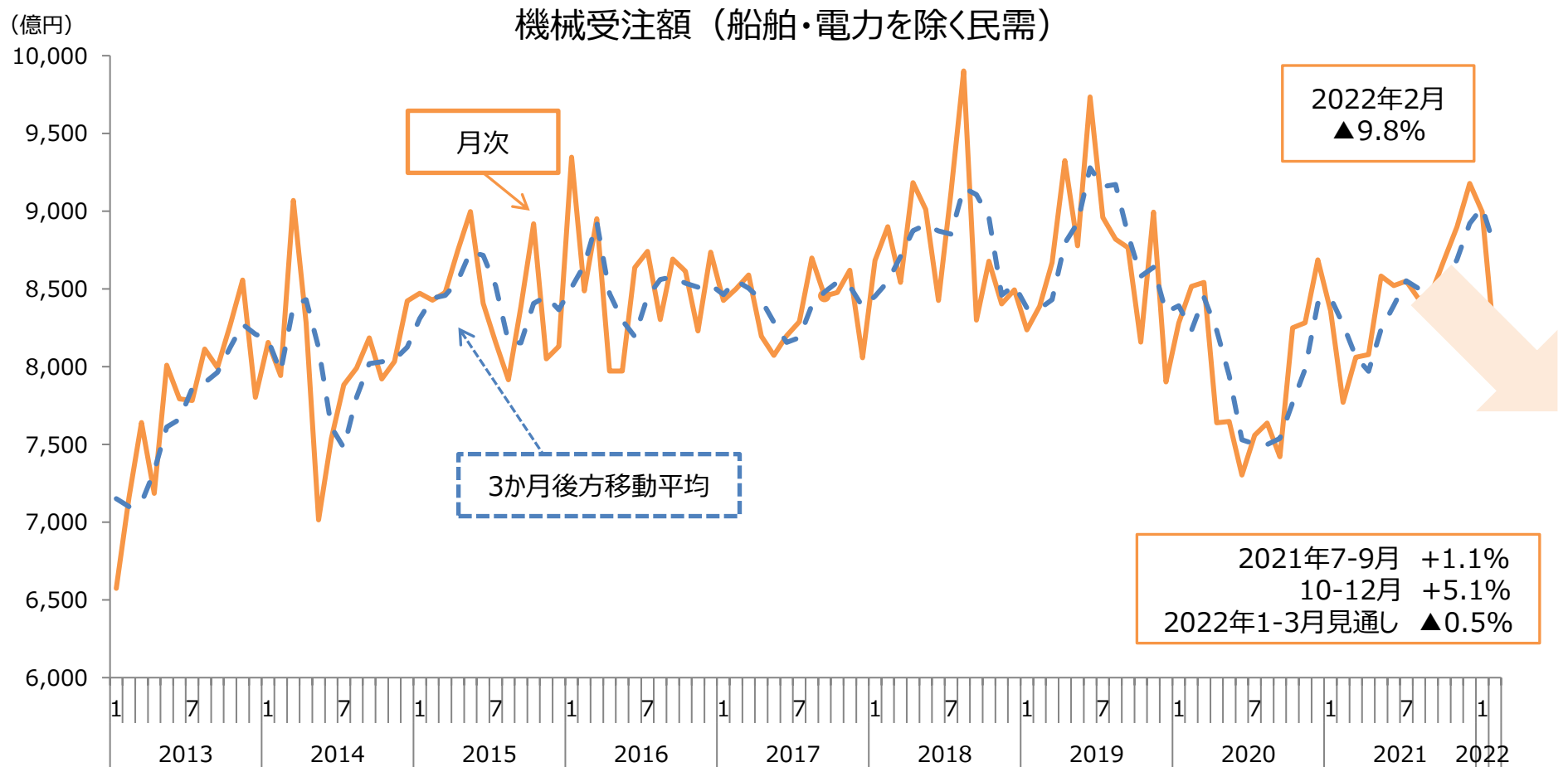


(資料) 財務省「法人企業統計季報」3月2日公表
(注) 季節調整済系列
金融業、保険業を除く。ソフトウェアを含む。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」4月1日公表
(注) 大企業は、資本金10億円以上。

機械受注

- 2月の機械受注(船舶・電力を除く民需)は、前月比▲9.8%と、2か月連続の減少。
- 基調判断は、「**持ち直しの動きに足踏みがみられる**」と前月から下方修正。

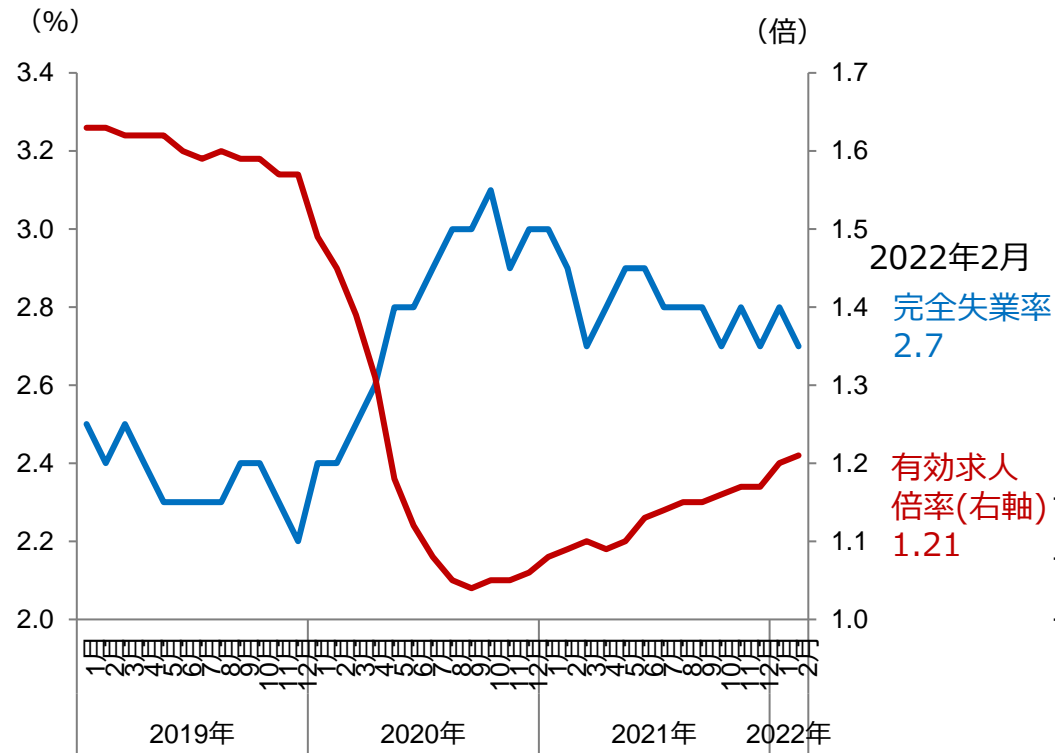


(資料) 内閣府「機械受注統計」4月13日公表

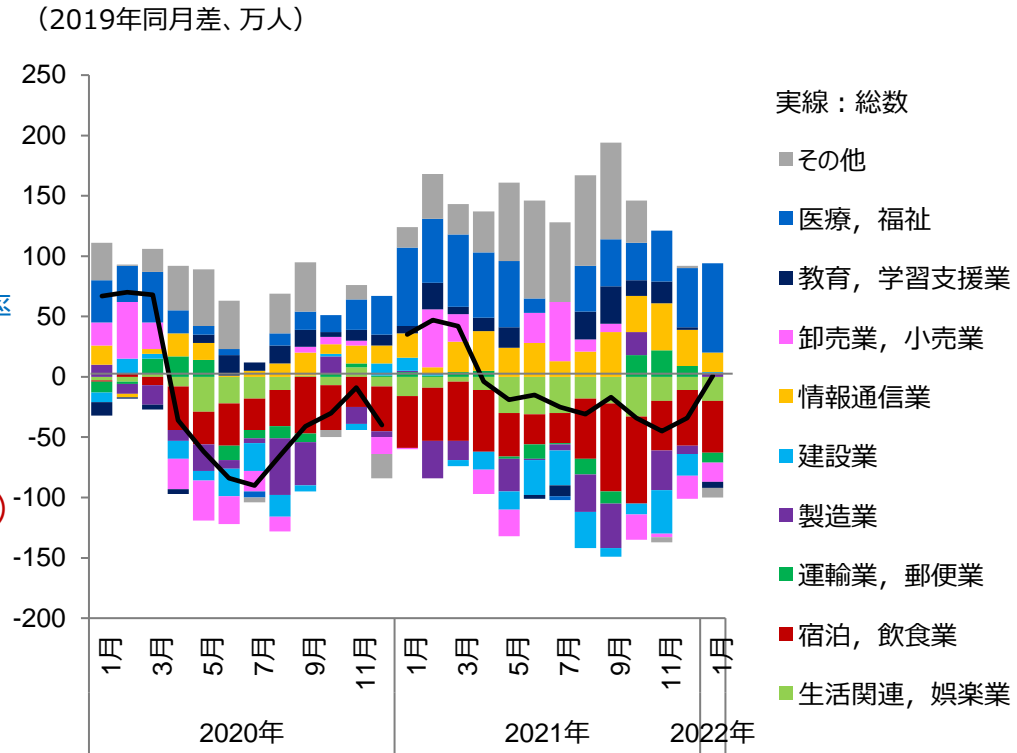
雇用

- 2月の完全失業率は2.7%と前月から▲0.1%低下、有効求人倍率は1.21倍と前月から上昇。
- 雇用者数はコロナ前との比較では、やや回復傾向。

失業率・有効求人倍率



雇用者数の増減（産業別）



(資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

日本經濟

美国經濟

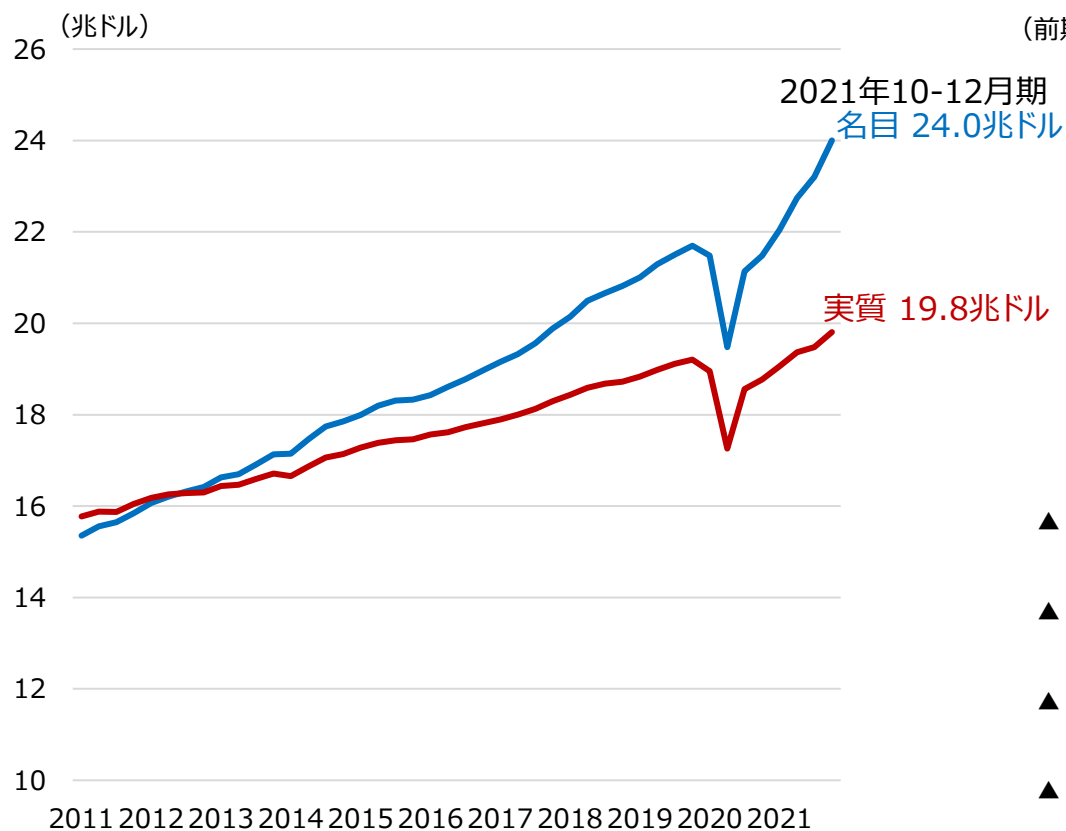
中国經濟

欧州經濟

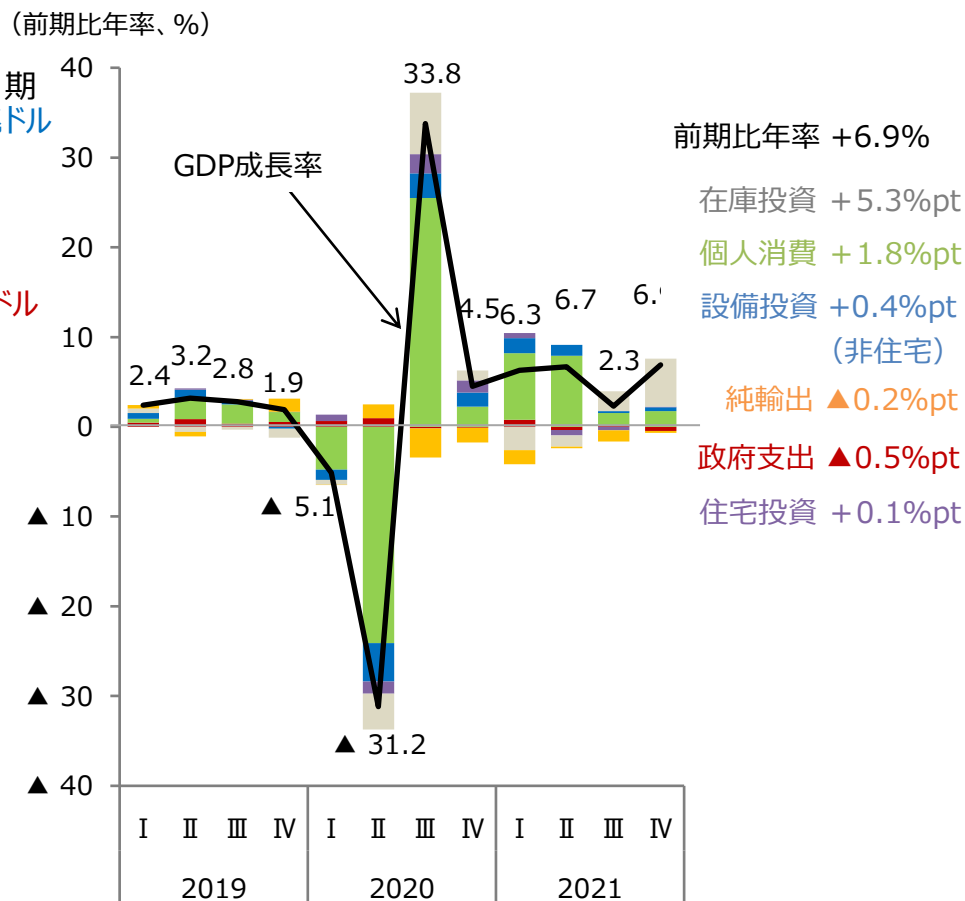
米国 GDP

- 10-12月期実質GDP成長率（三次推計）は前期比年率+6.9%。前期より成長率が加速。在庫投資の増加（寄与度：+5.3%pt）が大きく寄与。

GDPの推移



実質GDPの変動要因



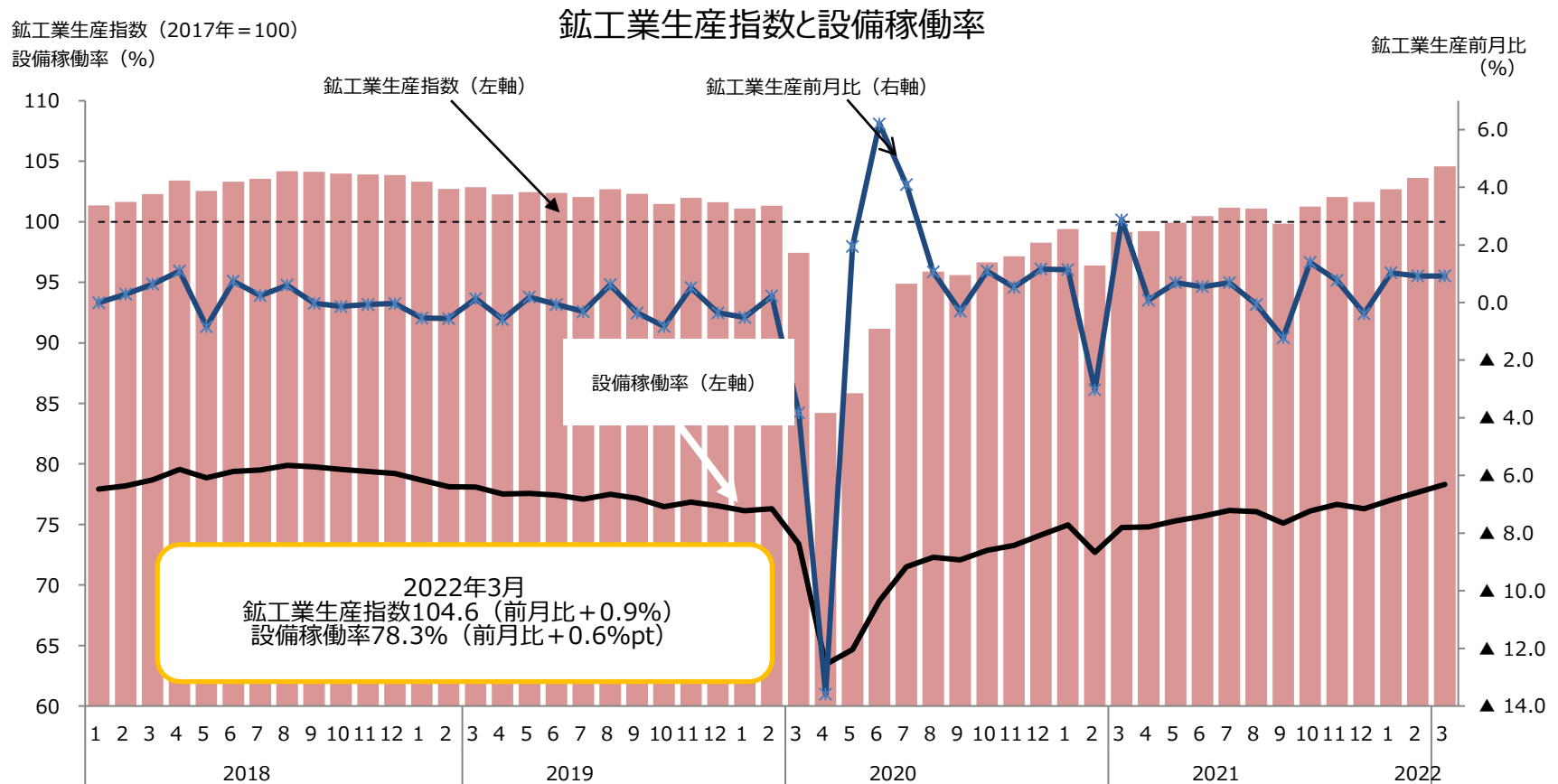
米国 ISM製造業・非製造業景気指数

- 3月のISM景気指数は、製造業・非製造業とも、22か月連続で中立水準の50を上回り、企業活動の拡大は維持。
- 製造業は57.1（先月：58.6）と低下。依然として、オミクロン株感染鈍化に伴う行動規制の解除により需要の増加が続いているものの、ロシアのウクライナ侵略による供給制約が重石。
- 非製造業は58.3（先月：56.5）と上昇。供給制約、労働力不足の影響が続いている一方で、行動制限の解除でサービス消費が増加。



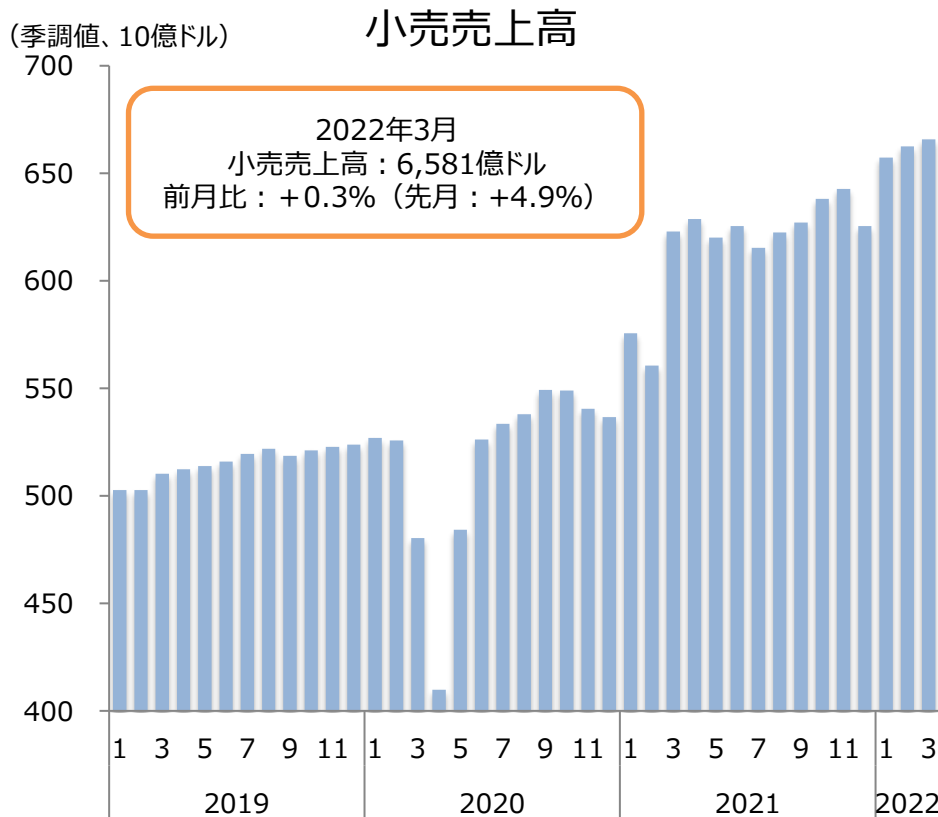
米国 生産

- 米3月鉱工業生産指数は、前月比+0.9%（先月+0.9%）と市場予想（+0.4%）を上回り、3ヶ月連続の上昇。
- 製造業は前月比+0.9%（先月+1.2%）と高い伸びが継続。鉱業（前月比+1.7%）や電力・ガス生産（同+0.4%）もプラス。

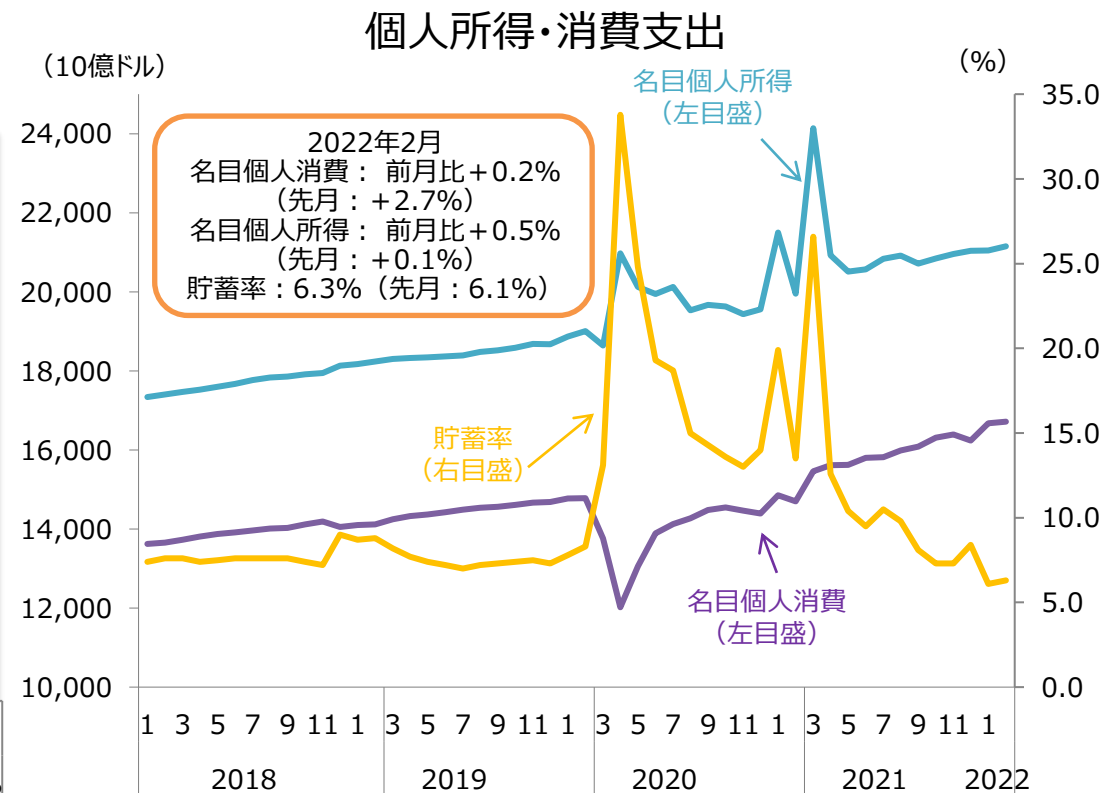


米国 消費

- 3月の小売売上高は前月比+0.5%と、市場予想（同+0.8%）を下回ったものの、3カ月連続で増加。一方、自動車や建材、ガソリンスタンド、飲食を除いたコア小売売上高は、前月比▲0.1%（2月：同▲0.9%）と小幅ながら、2か月連続で減少。ガソリン販売（2月：前月比+6.7%→3月：同+8.9%）の大幅な上昇が影響。
- 2月の個人消費支出は前月比+0.2%（先月：2.7%）と、市場予想（+0.5%）を下回った。



資料：米商務省「小売売上高」



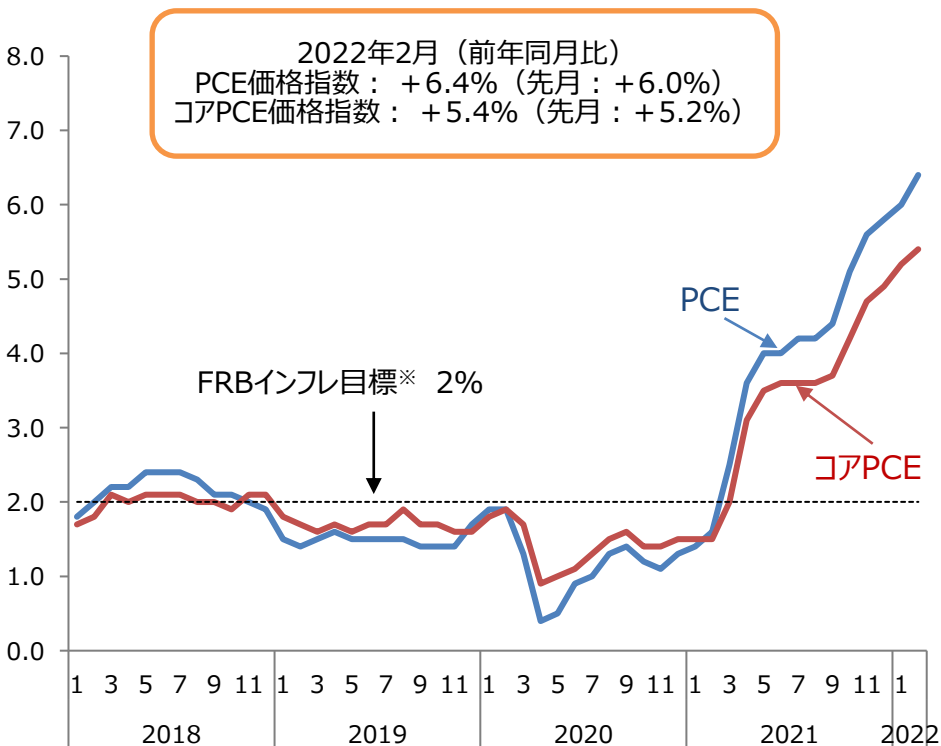
資料：米商務省「個人消費・所得」

米国 物価①

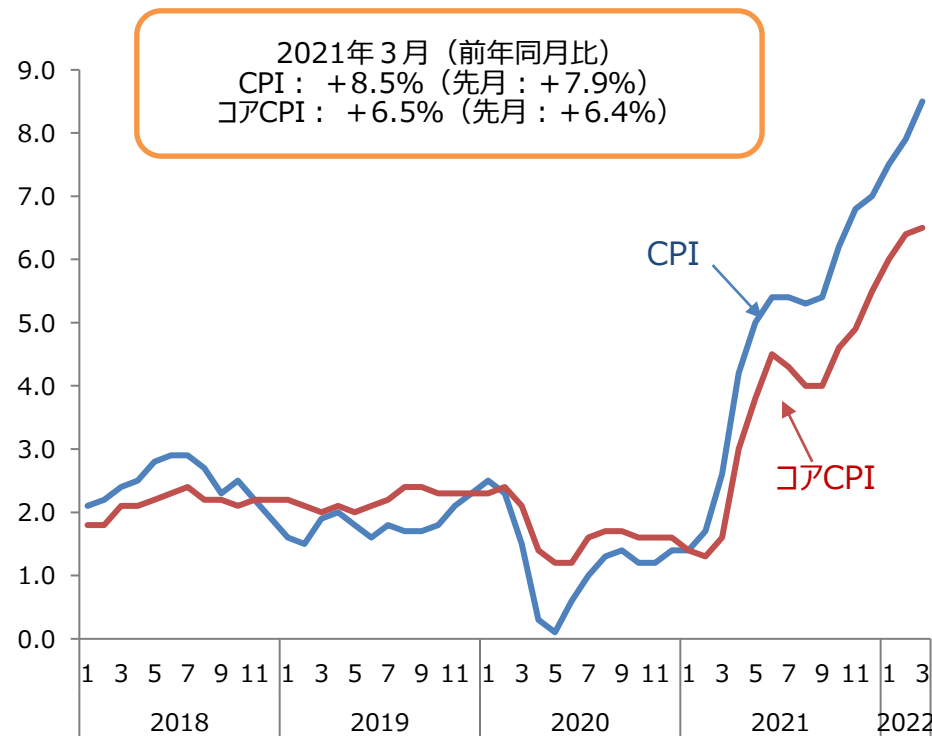
- 2月のPCE価格指数は、前年同月比+6.4%（先月:+6.0%）と先月より加速し、1982年以来の伸び。
- 3月の消費者物価（CPI）は、前年同月比は+8.5%（先月:+7.9%）と、1981年以来の最高水準。

PCE価格指数（前年同月比）

CPI（前年同月比）



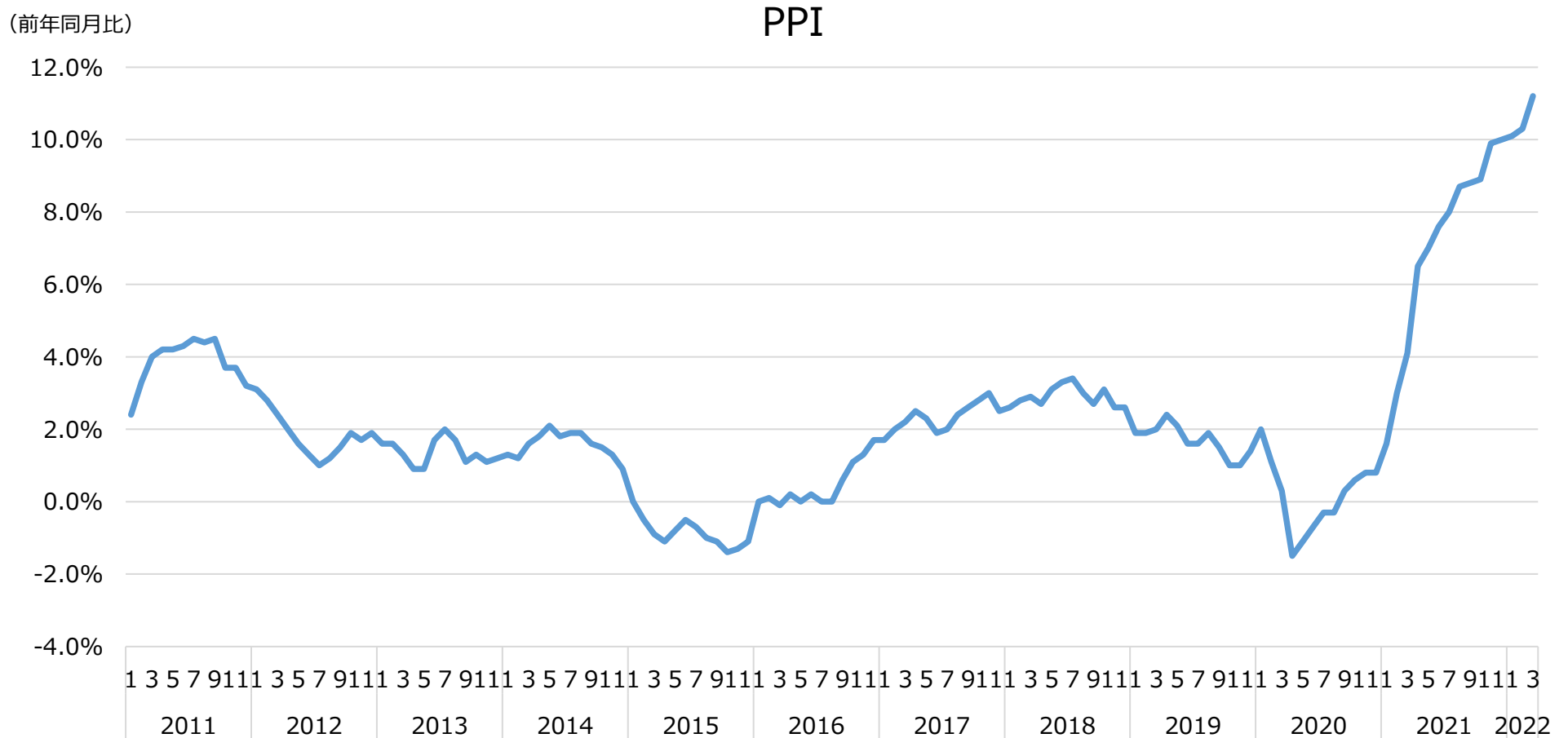
資料：米商務省「PCE価格指数」
 ※FRBは、個人消費支出（PCE）価格指数をインフレ指標としている。



資料：米労働省「消費者物価指数（CPI）」

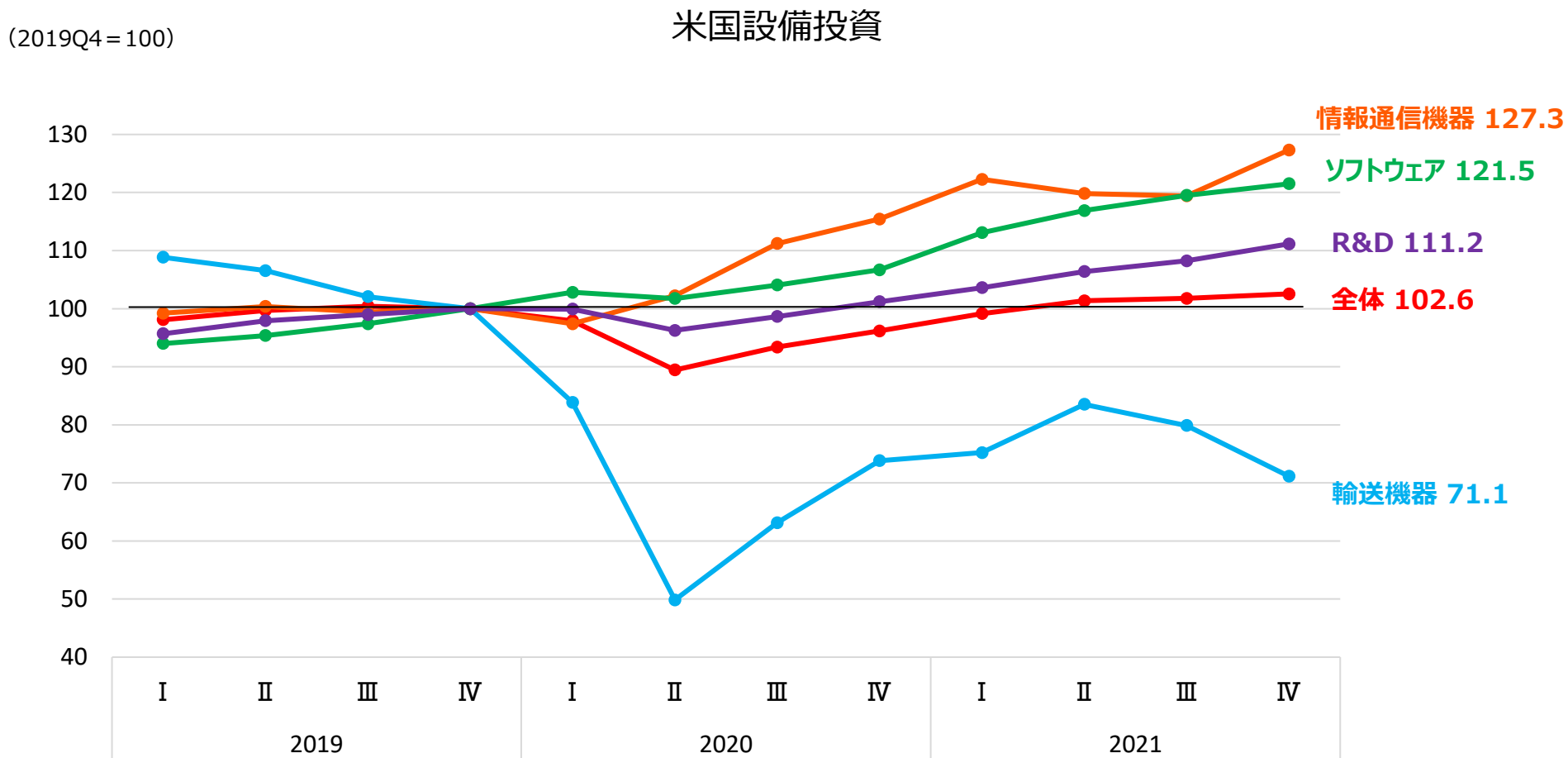
米国 物価②

- 2022年3月のPPI（卸売物価指数）は前年同月比+11.2%と、2月（同+10.3%）から伸びが加速。



米国 設備投資

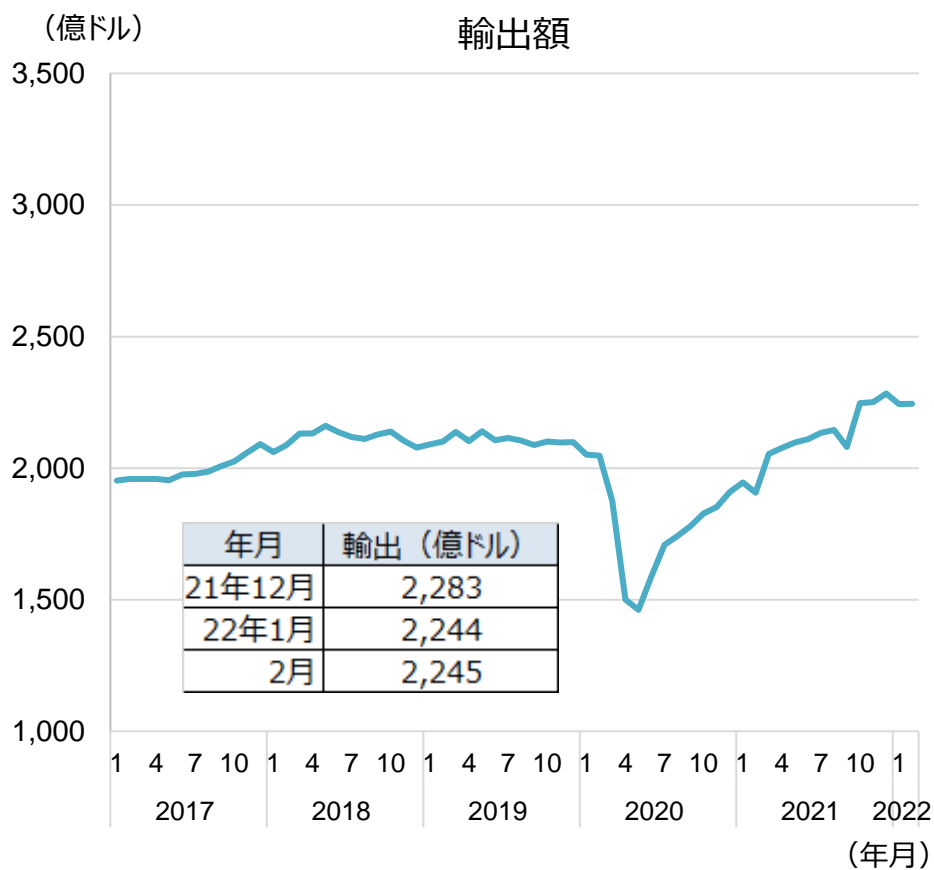
- 2021年10-12月期の設備投資額を、コロナ禍前の2019年10-12月期と比較すると、+2.6%。
- 分野別では、情報通信機器は+27.3%、ソフトウェアは+21.5%、R&Dは+11.2%。



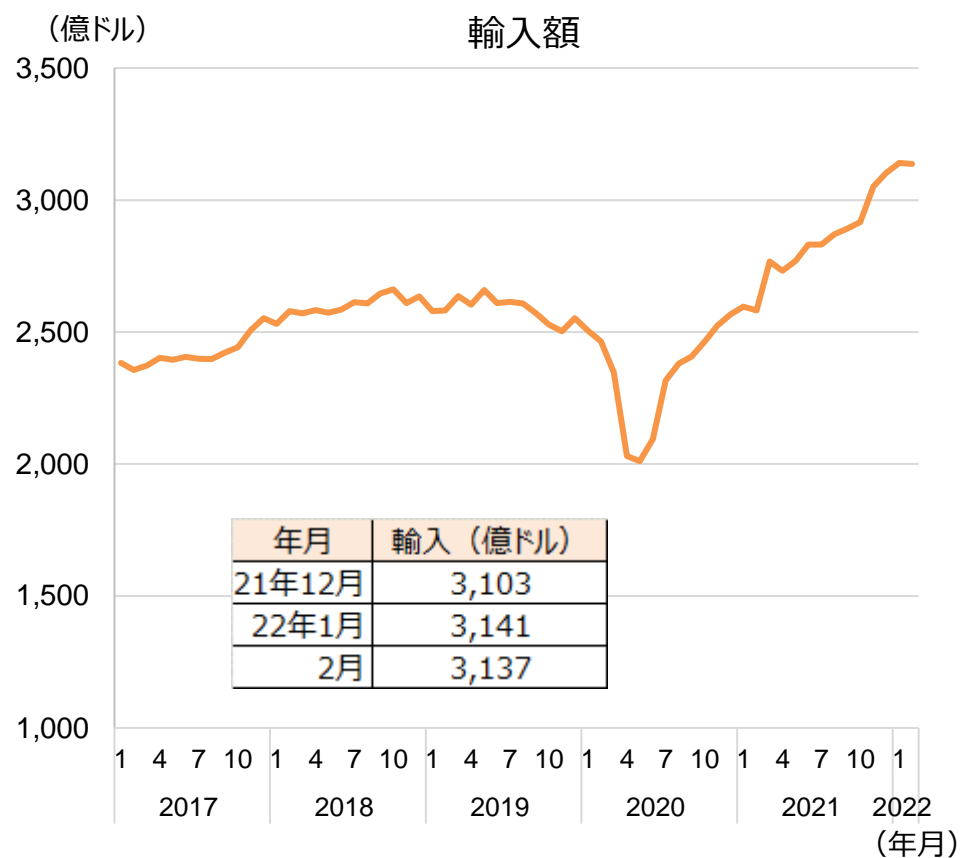
(資料) 米商務省「GDP統計（二次推計）」（2月24日公表）より作成。
2012年価格GDP項目実額から計算。季節調整値。

米国 輸出入

- 2022年2月の輸出額は、2,245億ドルと前月から1億ドル増加。輸入額は、3,137億ドルと前月から▲4億ドル減少。結果として、貿易赤字は▲892億ドル（1月：▲897億ドル）に縮小。



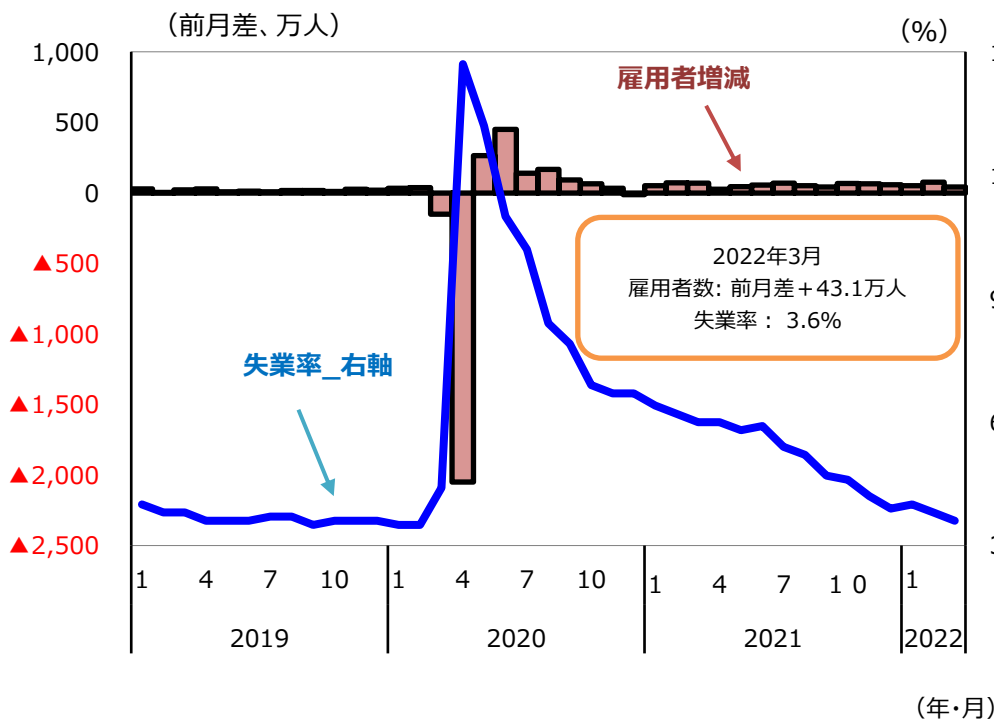
(資料) 米商務省「貿易収支」



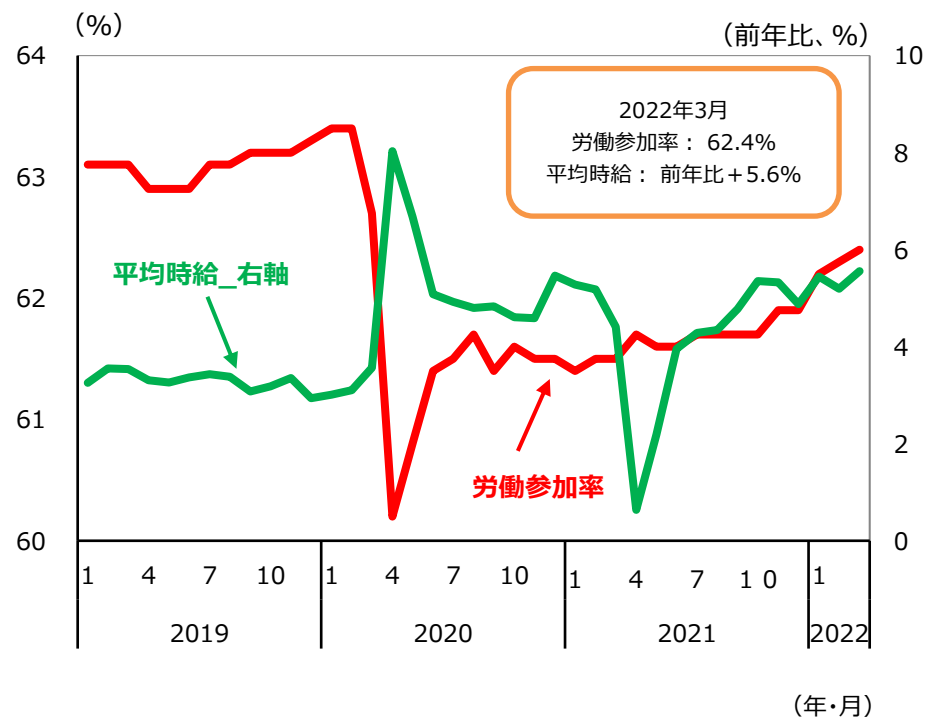
米国 雇用

- 米労働省が公表する3月雇用統計において、非農業部門雇用者数（季調値）は前月差+43.1万人（先月：+75.0万人）。市場予想（+49.0万人）を下回った。
- 失業率は3.6%（先月：3.8%）と低下し、2020年2月以来の水準に改善。
- 平均時給は前年比+5.6%と、先月（+5.1%）から伸びが加速。一方、労働参加率は依然として回復ペースが緩慢。

雇用者数増減と失業率



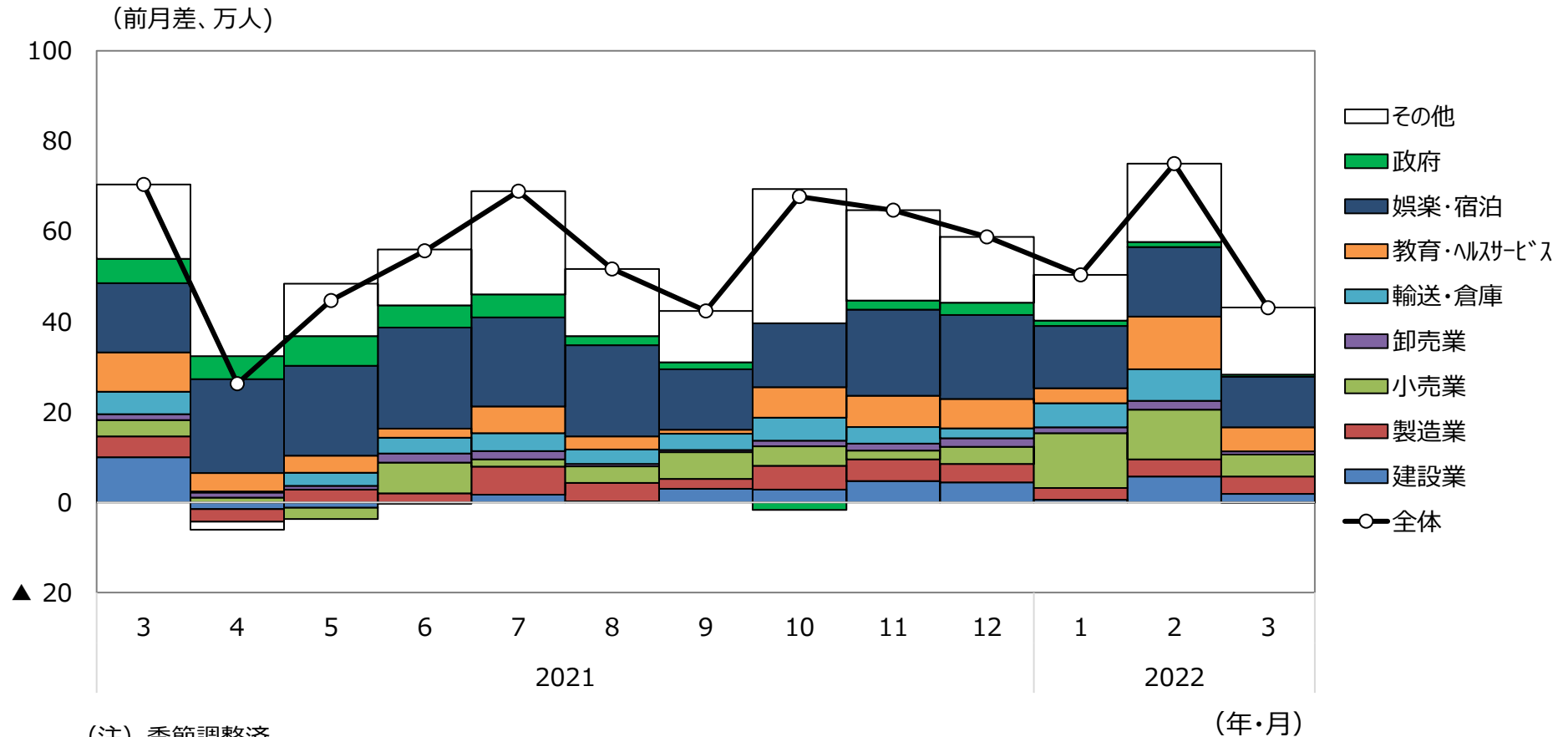
労働参加率と平均時給



米国 業種別雇用者数

- 3月は、オミクロン株感染ペースの鈍化により2月に回復した娯楽・宿泊（2月：前月差+15.4万人→3月：同+11.2万人）などが鈍化。

民間業種別雇用者数の推移



日本經濟

米國經濟

中國經濟

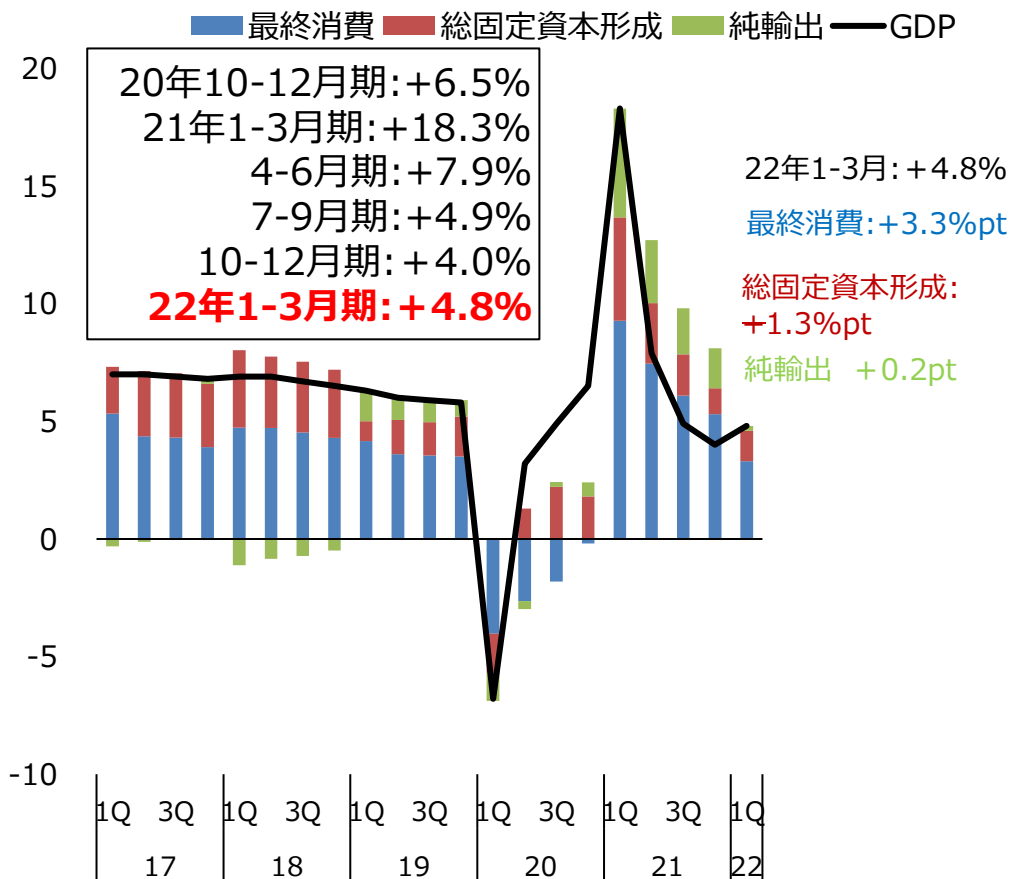
歐洲經濟

中国 GDP

- 22年1-3月期の実質GDP成長率は、前年同期比+4.8%と市場予想（+4.2%）を上回った。
- 21年通年の実質GDP成長率は、前年比+8.1%。政府目標の「6%以上」を上回った。

四半期

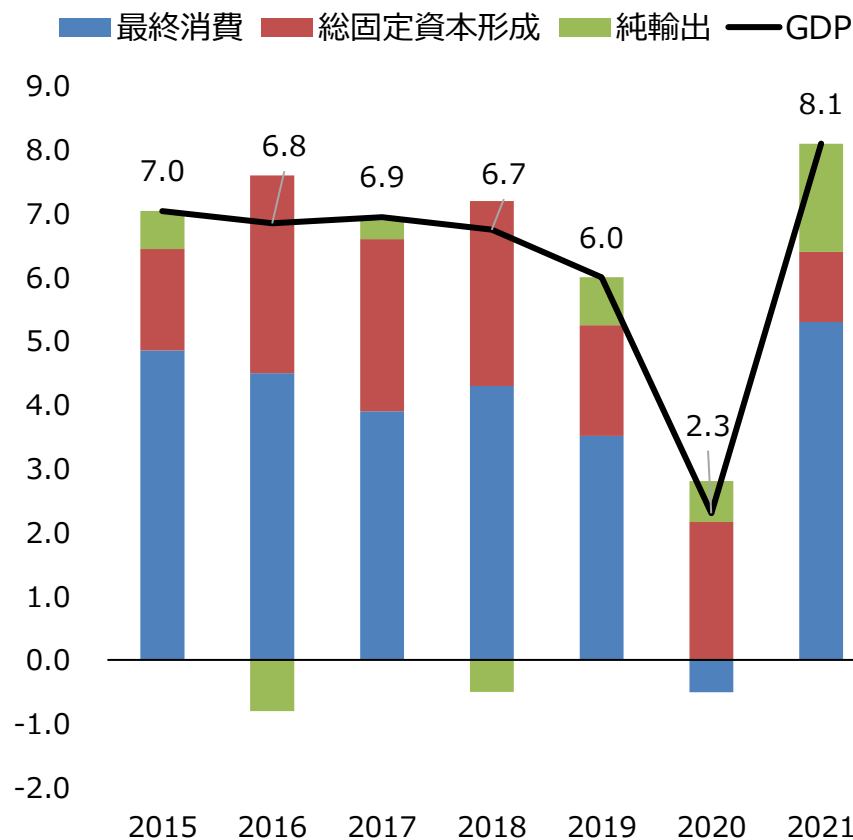
(前年同期比 %)



(資料) CEIC(中国国家统计局4月18日公表)

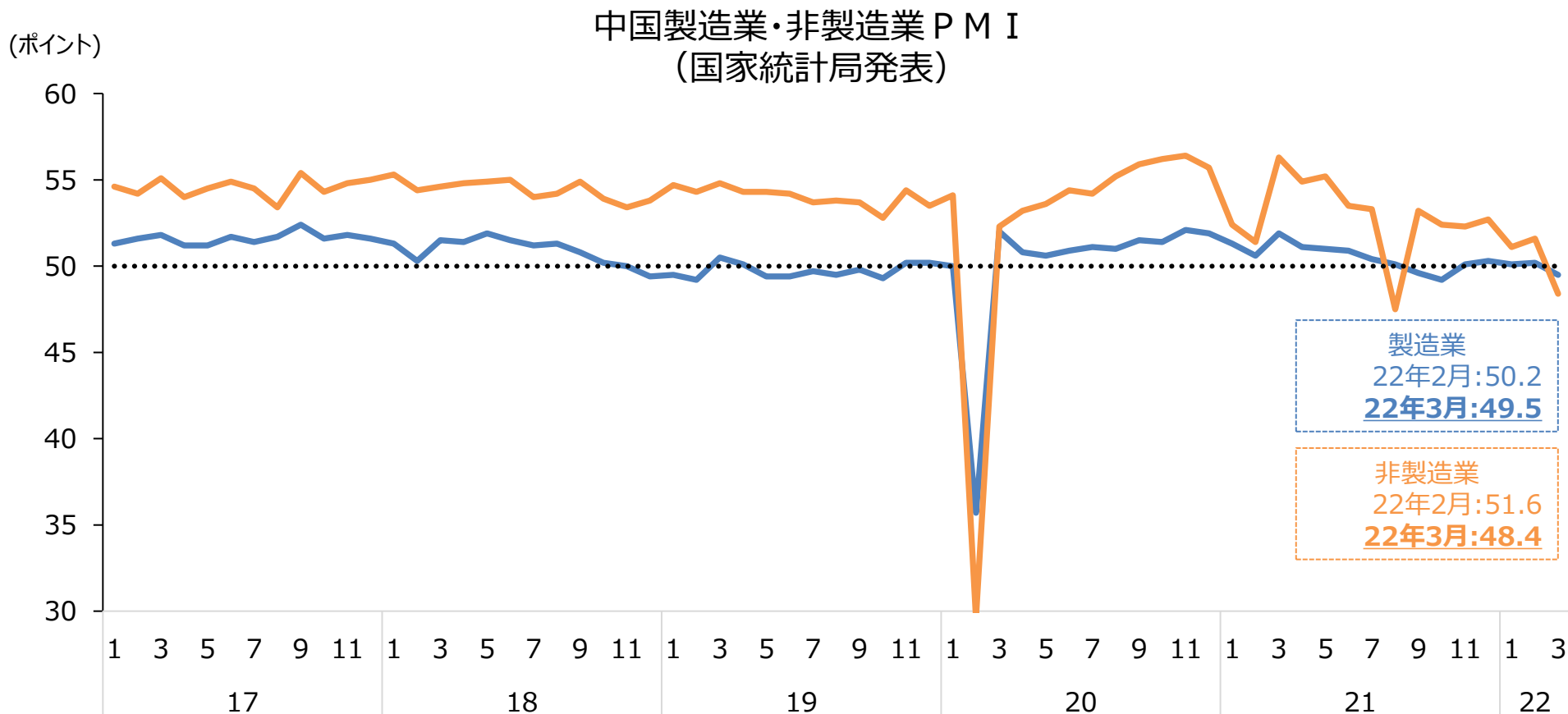
通年

前年比 (%)



中国 国家統計局PMI

- 3月の国家統計局製造業PMIは49.5と先月（50.2）から▲0.7pt。経済活動の中心地における新型コロナの感染再拡大や原材料高による内需不足が経済成長の足かせとなった。
- 非製造業は48.4と先月（51.6）から▲3.2pt。接触型のサービス業を中心に感染拡大による移動制限、住宅団地封鎖、消費者心理悪化等の影響が表れた。



・国家統計局発表PMI：国有企業や大型企業など約3,000社（製造業）、約4,000社（非製造業）が対象

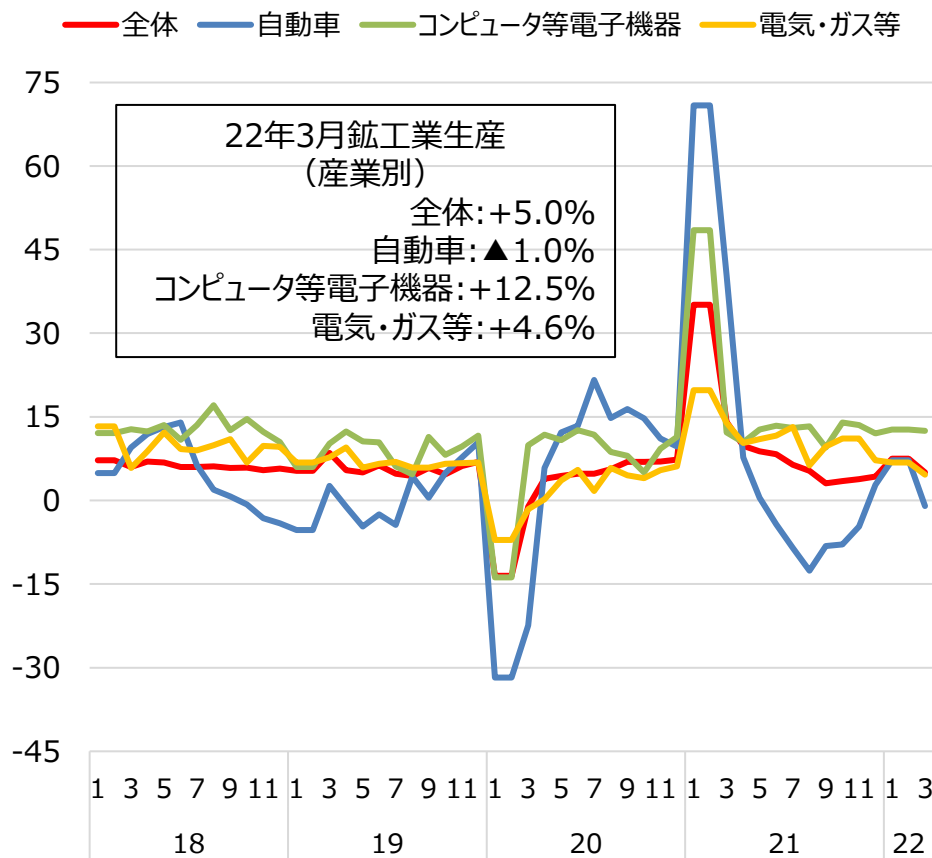
(資料) bloomberg(中国国家統計局・中国物流購入連合会4月1日公表)

中国 生産

- 22年3月の鉱工業生産は前年同月比+5.0%と市場予想（+4.0%）を上回った。
- 21年通年では前年比+9.6%。

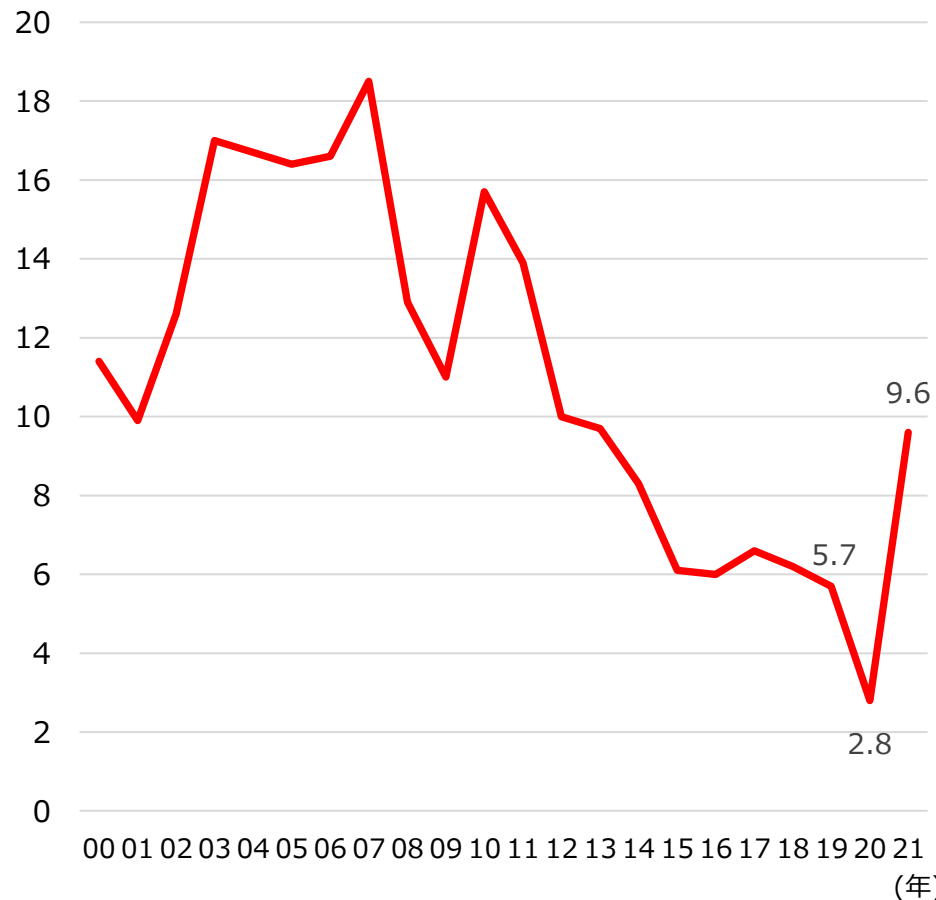
前年同月比

(前年同月比 %)



前年比

鉱工業生産全体
前年比 (%)



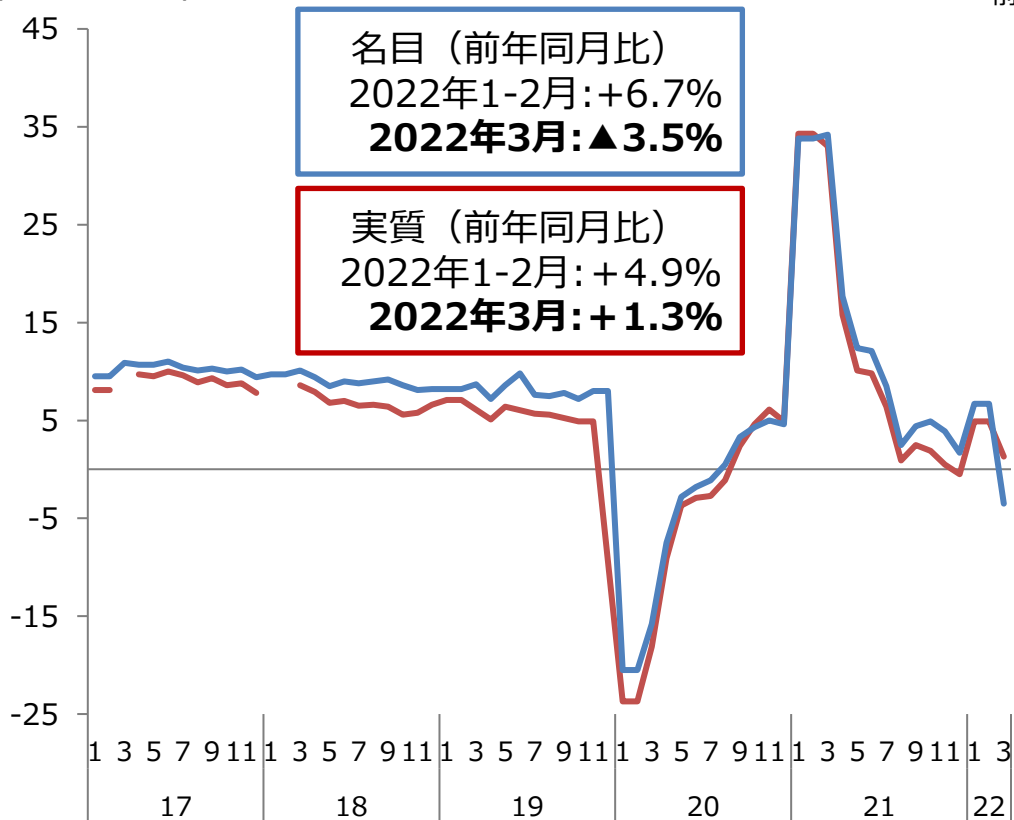
(資料) CEIC(中国国家统计局4月18日公表)

中国 消費

- 22年3月の名目小売売上高は前年同月比▲3.5%と先月（+6.7%）から伸びが鈍化。
- 21年通年は、20年（前年比▲3.9%）の反動もあり、前年比+12.5%。

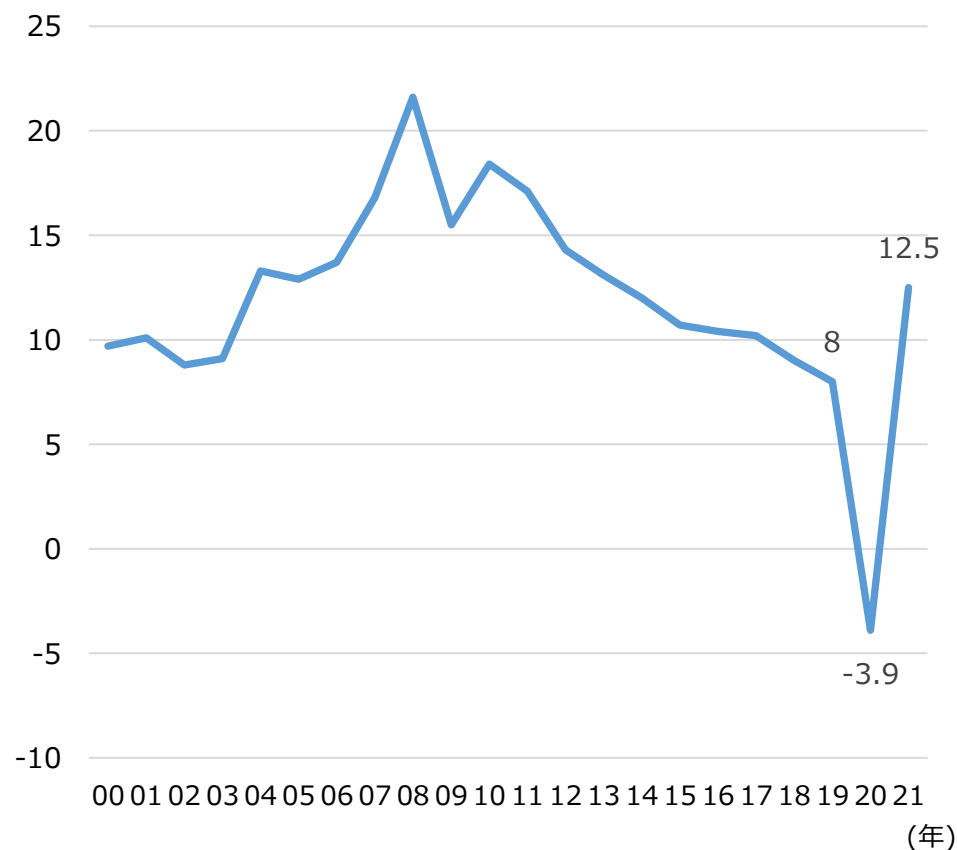
前年同月比

(前年同月比 %)



前年比

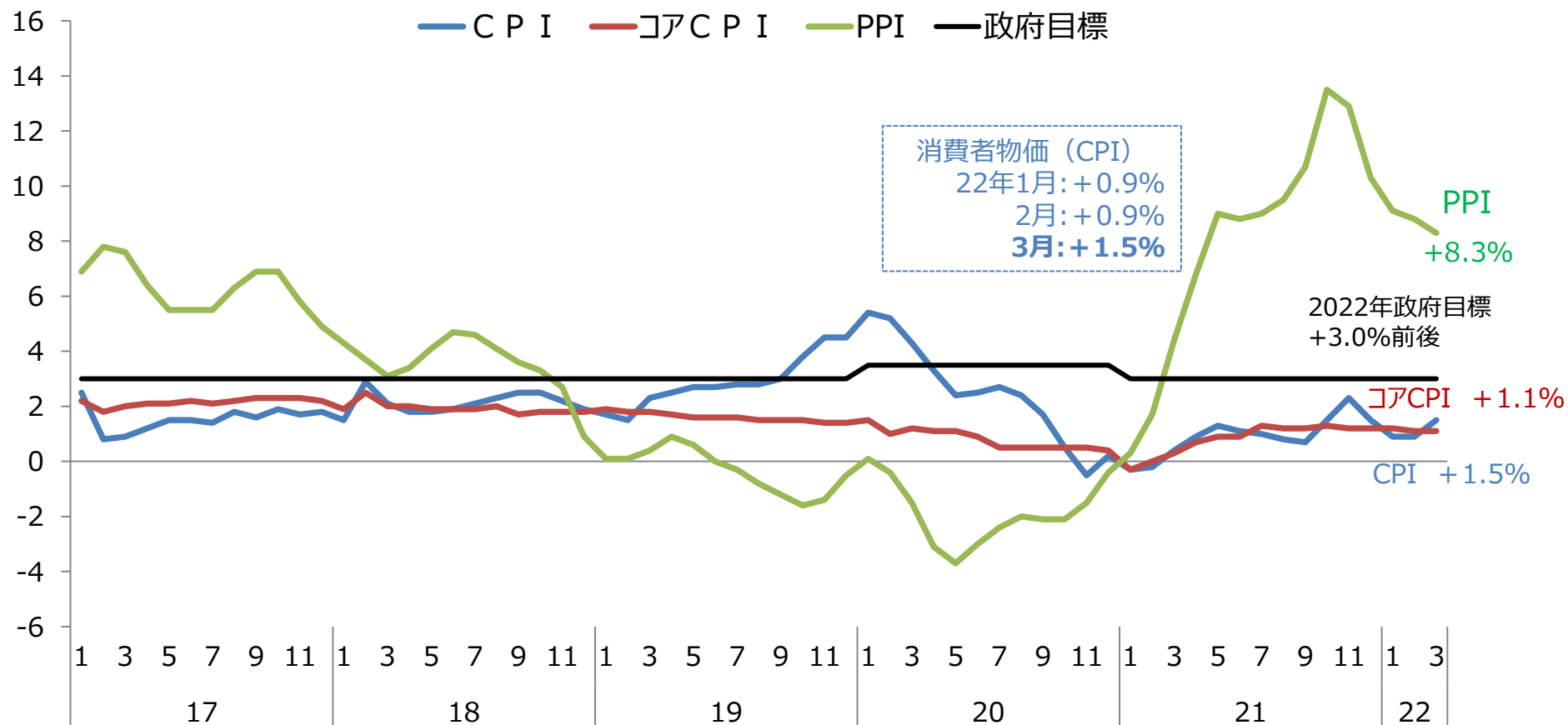
名目小売売上高
前年比 (%)



中国 物価

- 22年3月のCPI（消費者物価指数）は、前年同月比+1.5%（先月:+0.9%）と伸びが加速。
- PPI（生産者物価指数）は、前年同月比+8.3%（先月:+8.8%）と5か月連続で伸びが鈍化。

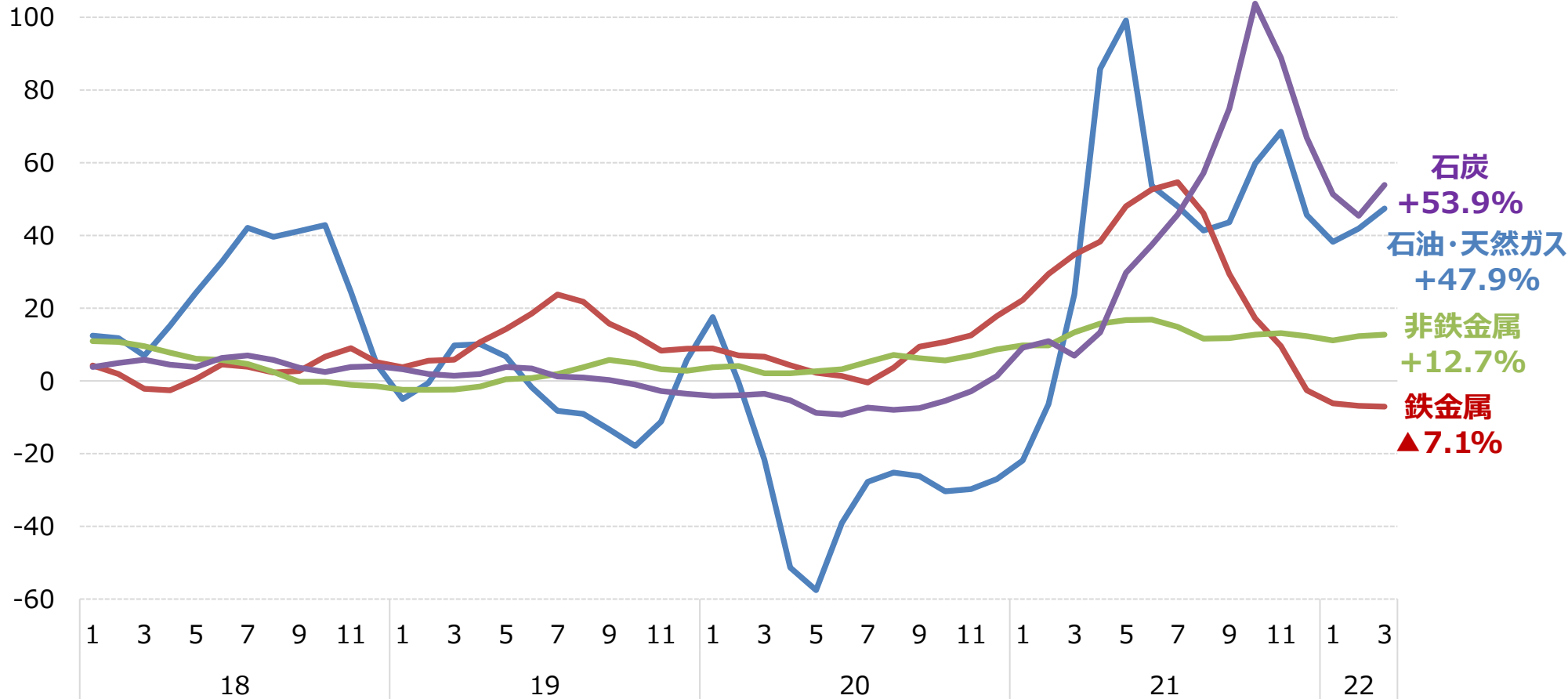
(前年同月比、%)



(参考) PPI内訳

- ロシアのウクライナ侵攻に伴う世界的な原油・ガス急騰でインフレリスクは拡大している。

(前年同月比 %)

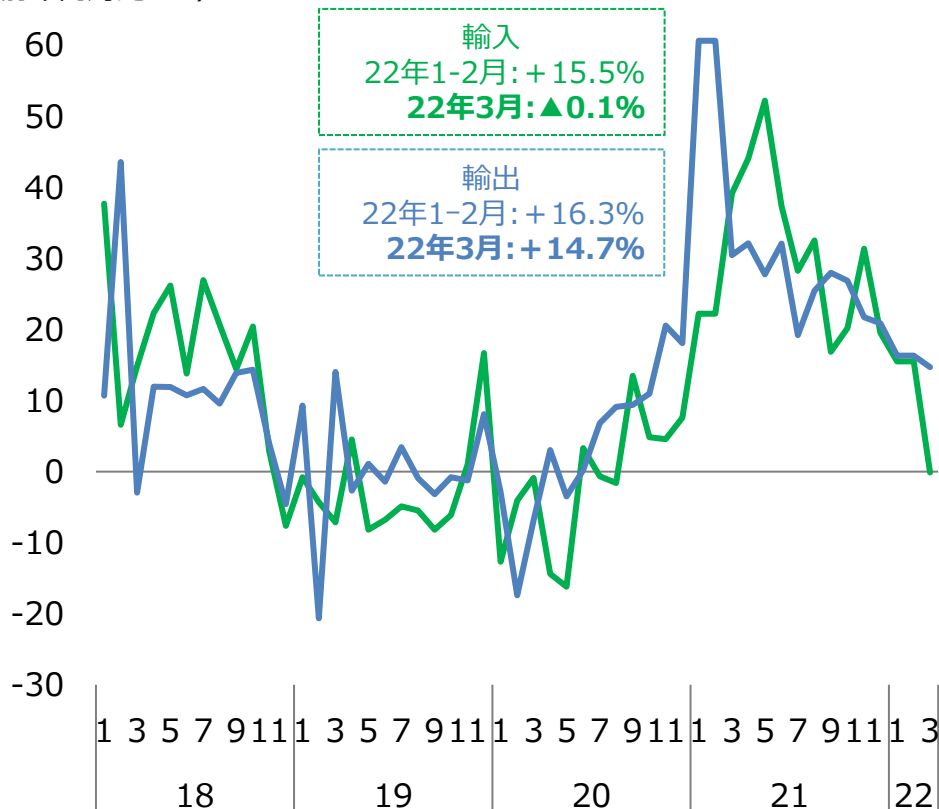


中国 貿易

- 22年3月の輸出額は前年同期比+14.7%。市場予想の12.8%増を上回る伸びとなったが、1-2月期の前年同期比16.3%増からは伸びが鈍化した。
- 輸入額は前年同期比▲0.1%。新型コロナウイルス対応の厳格な行動制限で物流が混乱し、20年8月以来のマイナスとなった。
- 貿易収支は+474億ドル。

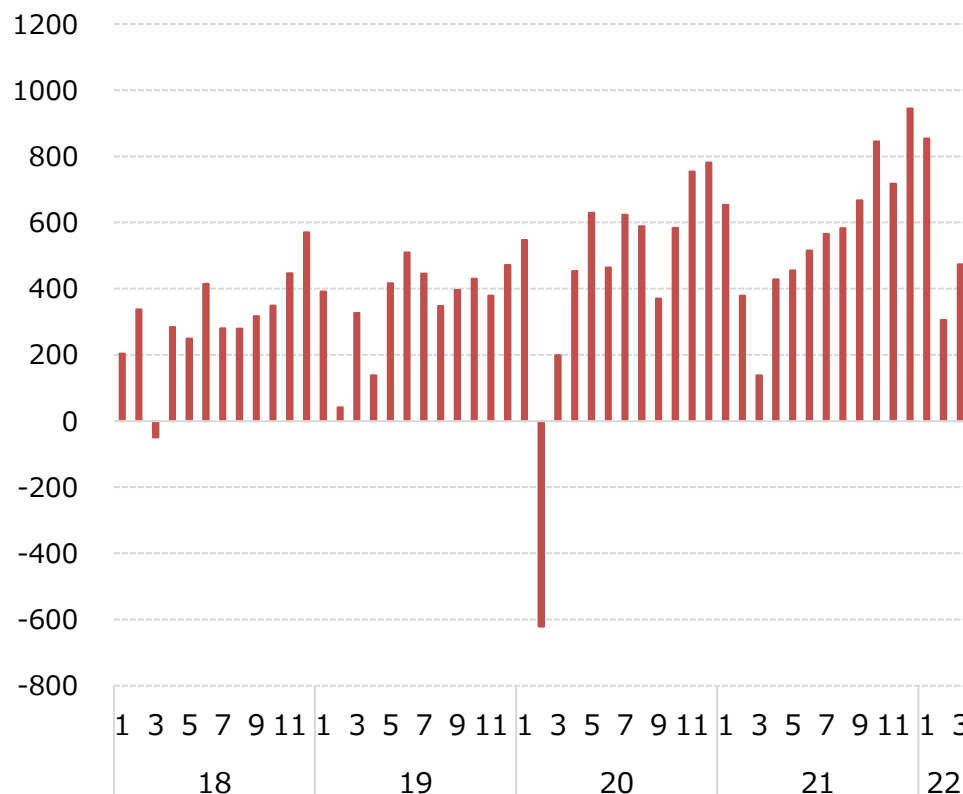
輸出入額

(前年同月比 %)



貿易収支

(億ドル)



※ドルベース

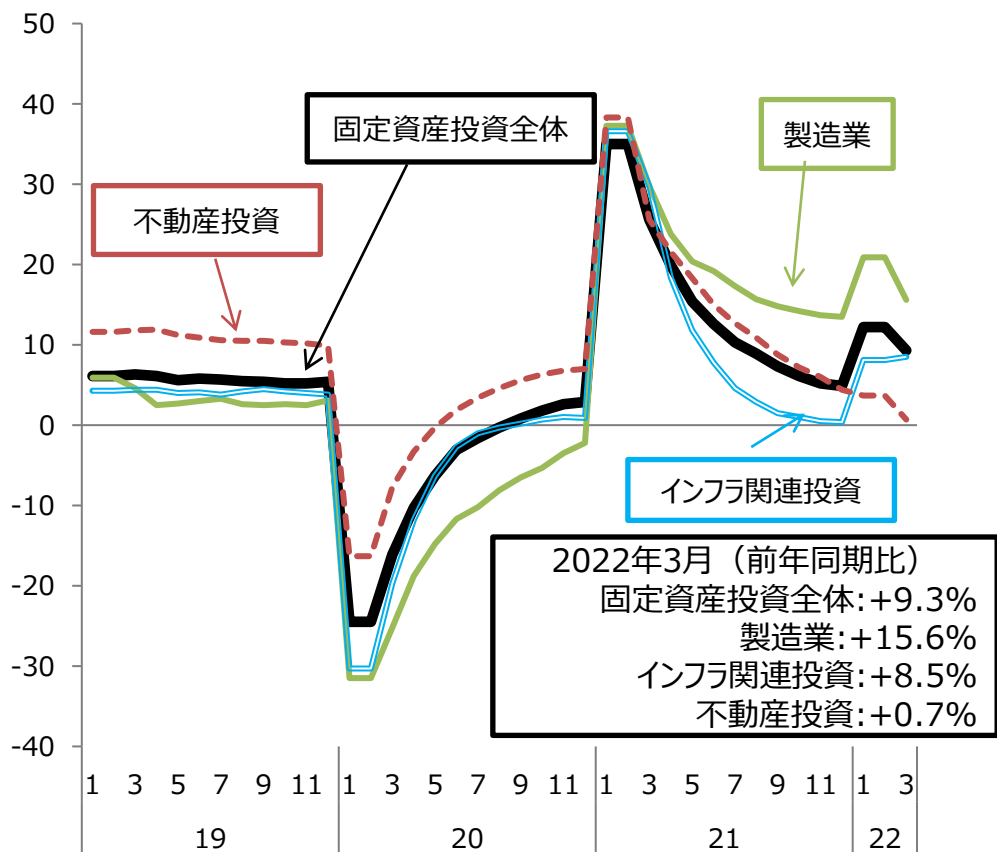
(資料)「CEIC(中国税関総署4月13日公表)」

中国 固定資産投資

- 22年3月の固定資産投資は年初来前年比+9.3%と伸びが鈍化。
- 21年の固定資産投資は前年比+4.9%。

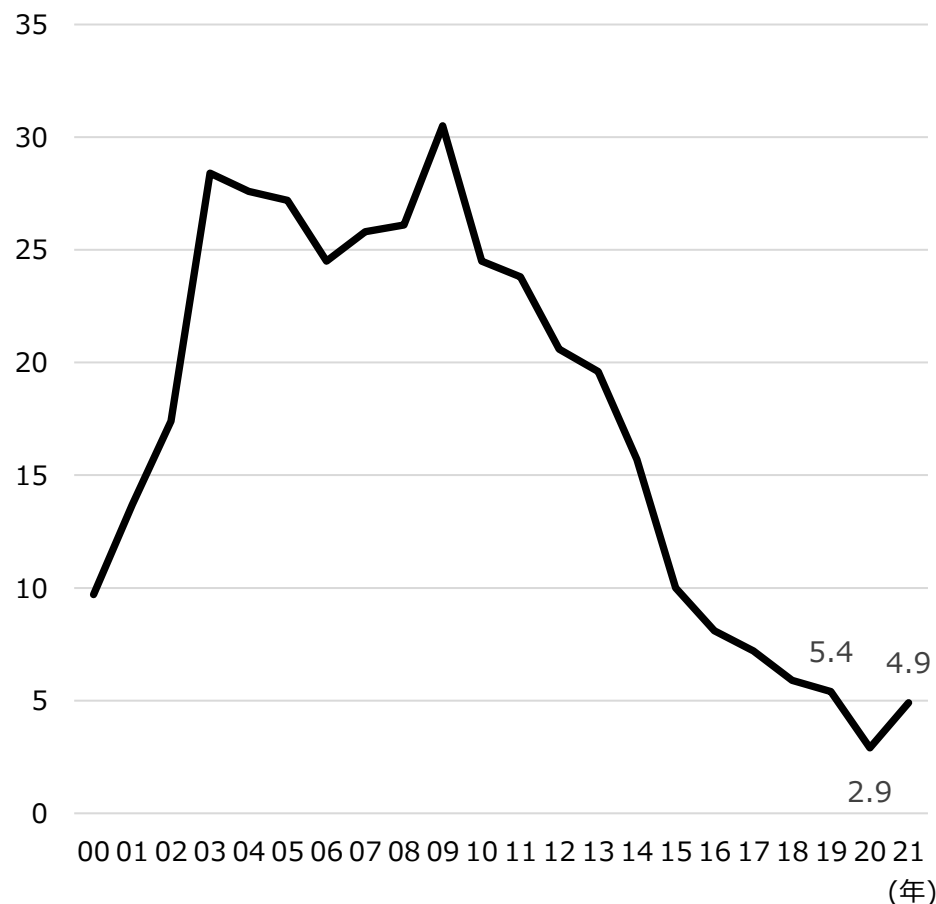
(前年比 (年初来累計) %)

前年同期比



固定資産投資全体
前年比 (%)

前年比



日本經濟

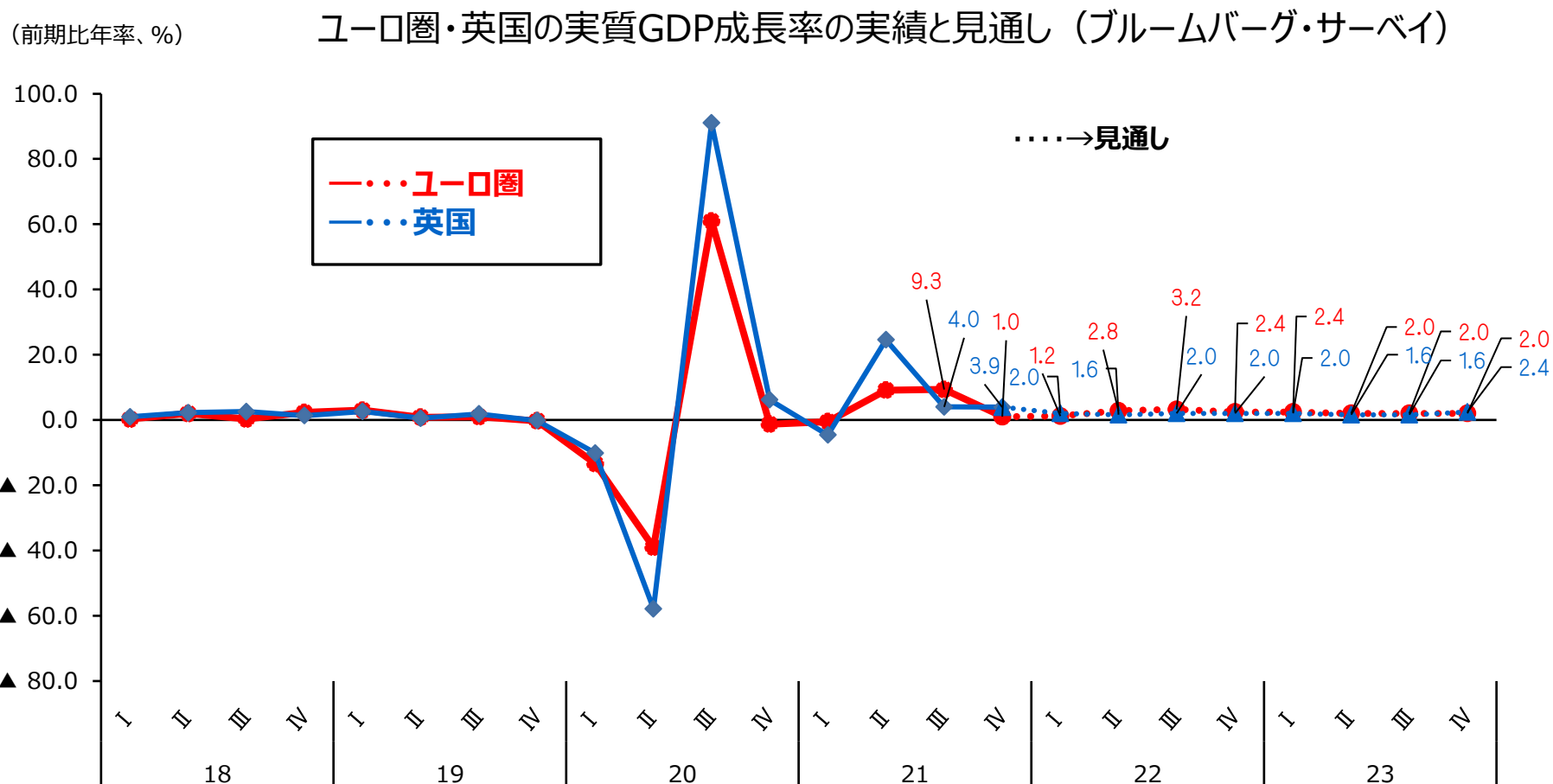
米國經濟

中國經濟

歐洲經濟

欧州 GDP

- ユーロ圏の21年10-12月期は、前期比年率+1.0%と、前期（+9.3%）より大幅に減速も三四半期連続のプラス成長。パンデミック前の2019年10-12月期の水準を+0.2%上回った。
- 英国の21年10-12月期は前期比年率+3.9%と三四半期連続のプラス成長。パンデミック前の2019年10-12月期を、▲0.4%下回る水準。

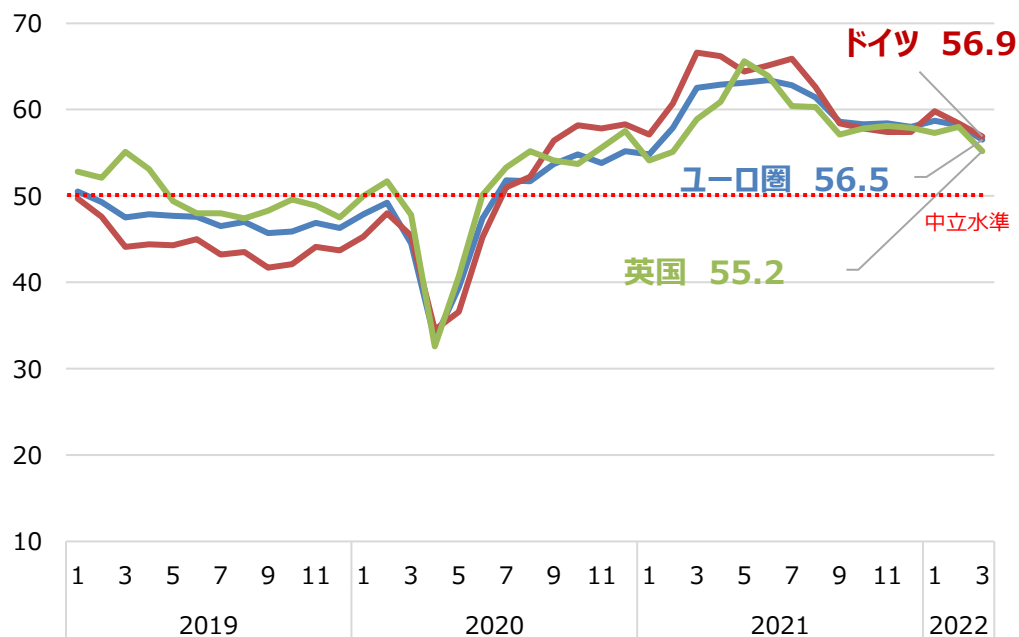


(資料) 予測：「Bloomberg Monthly Survey（3月調査）」※欧米金融機関等のエコノミスト見通しの中央値。（ユーロ圏：今回参加31社、英国：今回参加32社）
 実績：ユーロ圏：Eurostat 3月8日公表三次推計、英国：英国統計局3月30日公表速報値

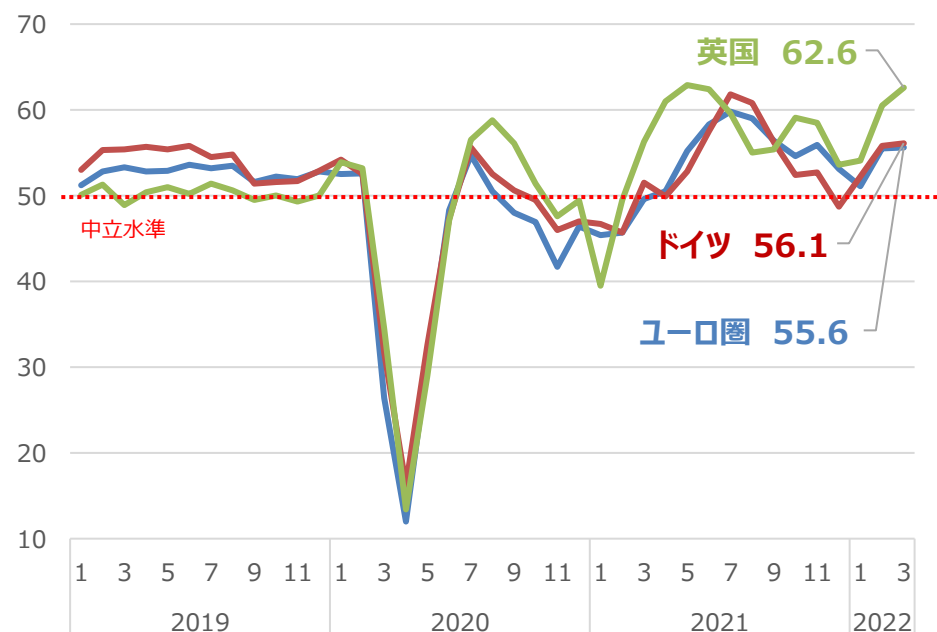
欧州 製造業・サービス業景況指数 (PMI)

- ユーロ圏の3月の製造業景況指数は56.5と先月（58.2）から▲1.7ポイント。
国別では、ドイツが56.9、英国が55.2と低下。
- ユーロ圏の3月のサービス業景況指数は55.6と先月（55.5）から+0.1ポイント。
国別では、ドイツが56.1、英国が62.6と上昇。

製造業景況指数



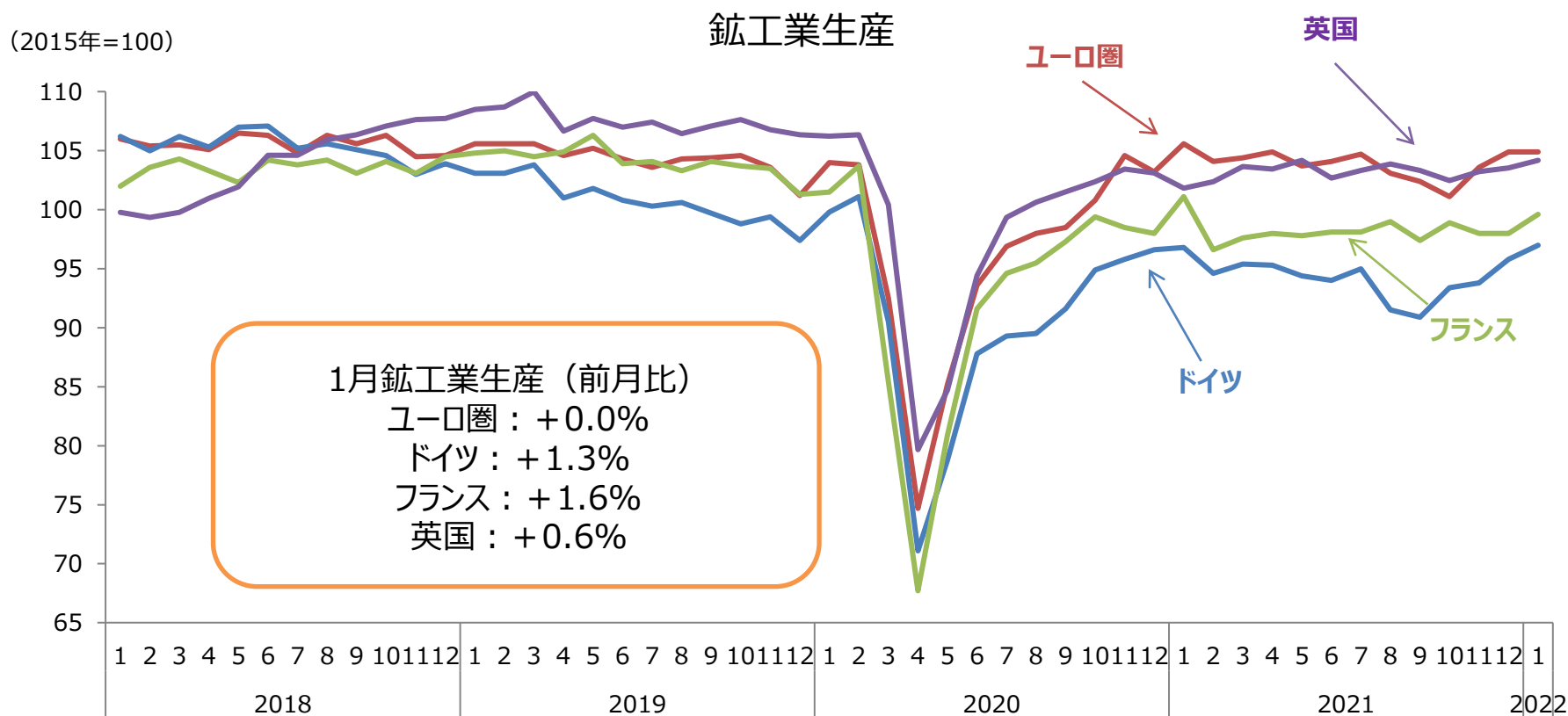
サービス業景況指数



(注) 調査対象は、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン、オランダ、オーストリア、アイルランド、ギリシャの8か国（ユーロ圏の生産の約89%）。
(資料) bloomberg、マークイットPMI（確報値）（3月24日、4月1日公表）

欧州 生産

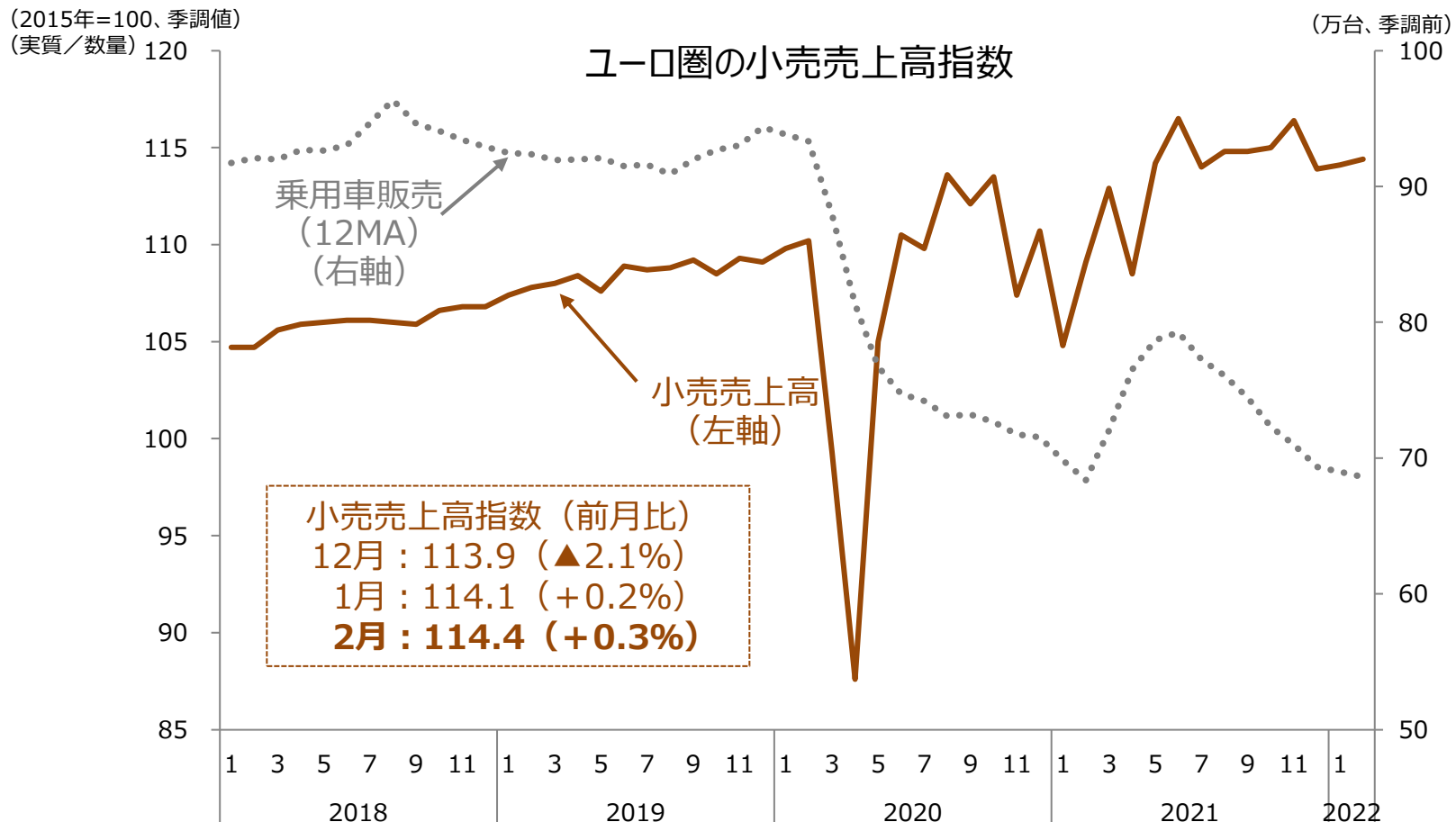
- ユーロ圏の1月の鉱工業生産指数は前月比+0.0%と前月から横ばい。産業別で見ると、電気・ガス（同+0.1%）、鉱業・採石業（同+1.3%）が増加、他方で製造業（同▲0.2）は減少。
- 財別で見ると、非耐久消費財（同+3.1%）は増加。一方で、資本財（前月比▲2.4%）、中間財（同▲0.3%）、エネルギー（同▲0.3%）、耐久消費財（同▲0.5%）は減少。



資料：Eurostat、Bloomberg（3月16日公表）、英国統計局（3月11日公表）
 ※建設業を除く、季調値。

欧州 消費

- ユーロ圏の2月の小売売上高は、前月比+0.3%（先月：+0.2%）と僅かに上昇。1月分は+0.2%のまま据え置き。
- 項目別では、非食料（除く自動車燃料）（前月比+0.8%）、非食料の内訳である通信販売・インターネット販売（同+1.2%）は上昇、食品・飲料・タバコ（同▲0.5%）は低下。また、自動車用燃料（同+3.2%）は大幅に上昇。



※1 小売売上高指数は、自動車・同部品を含まない。

※2 調査対象は、ユーロ圏諸国19か国。

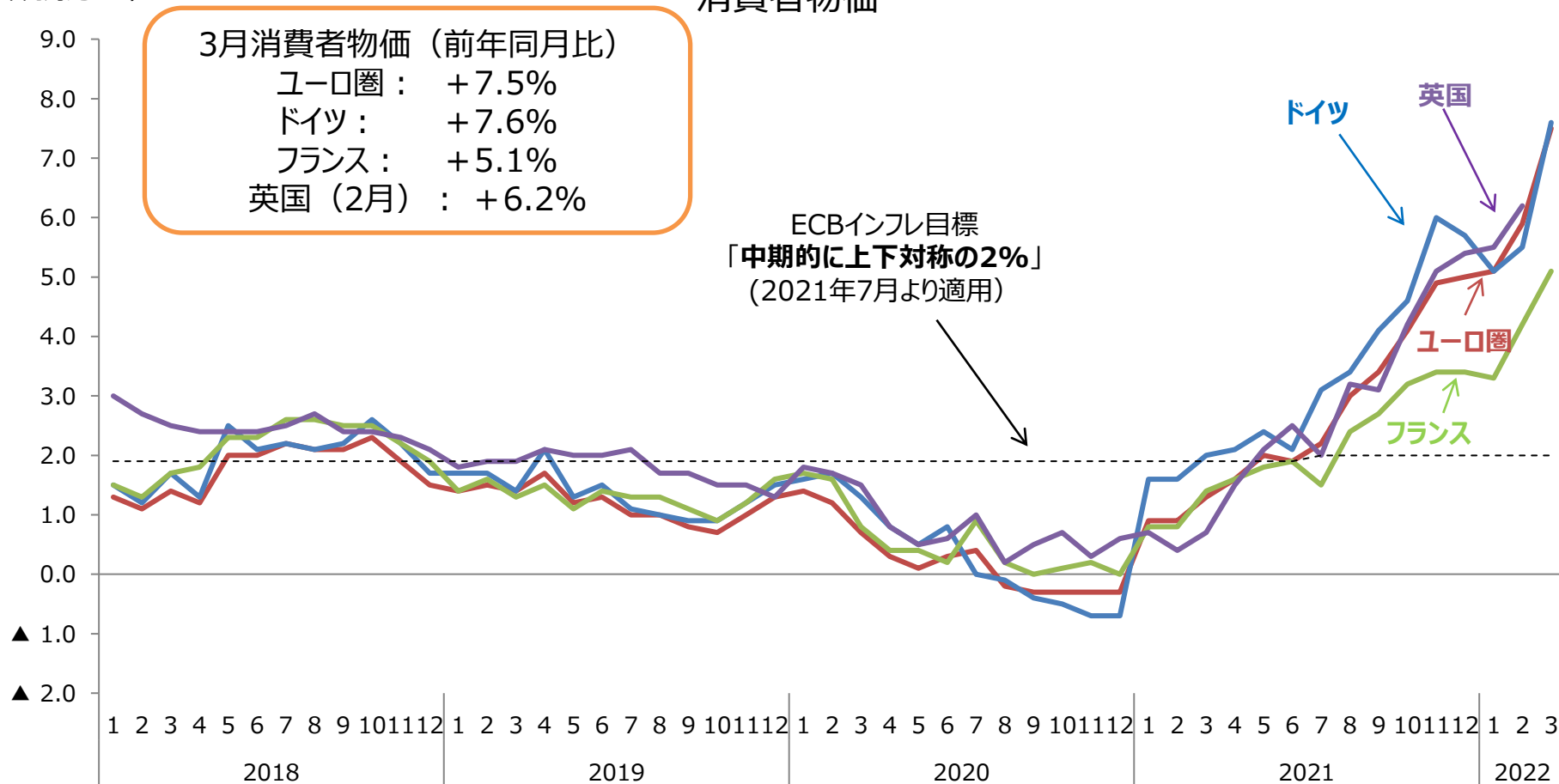
(資料) bloomberg、Eurostat、欧州自動車工業会（4月7日公表）

欧州 物価①

- 3月のユーロ圏消費者物価（H I C P）は、前年同月比+7.5%。市場予想（+6.7%）を上回り、前月（+5.9%）から加速し、1996年1月の統計開始以来最大の伸び率を5か月連続で更新。
- 国別では、ドイツ：+7.6%、フランス：+5.1%。英国（2月）：+6.2%。

(前年同月比 %)

消費者物価



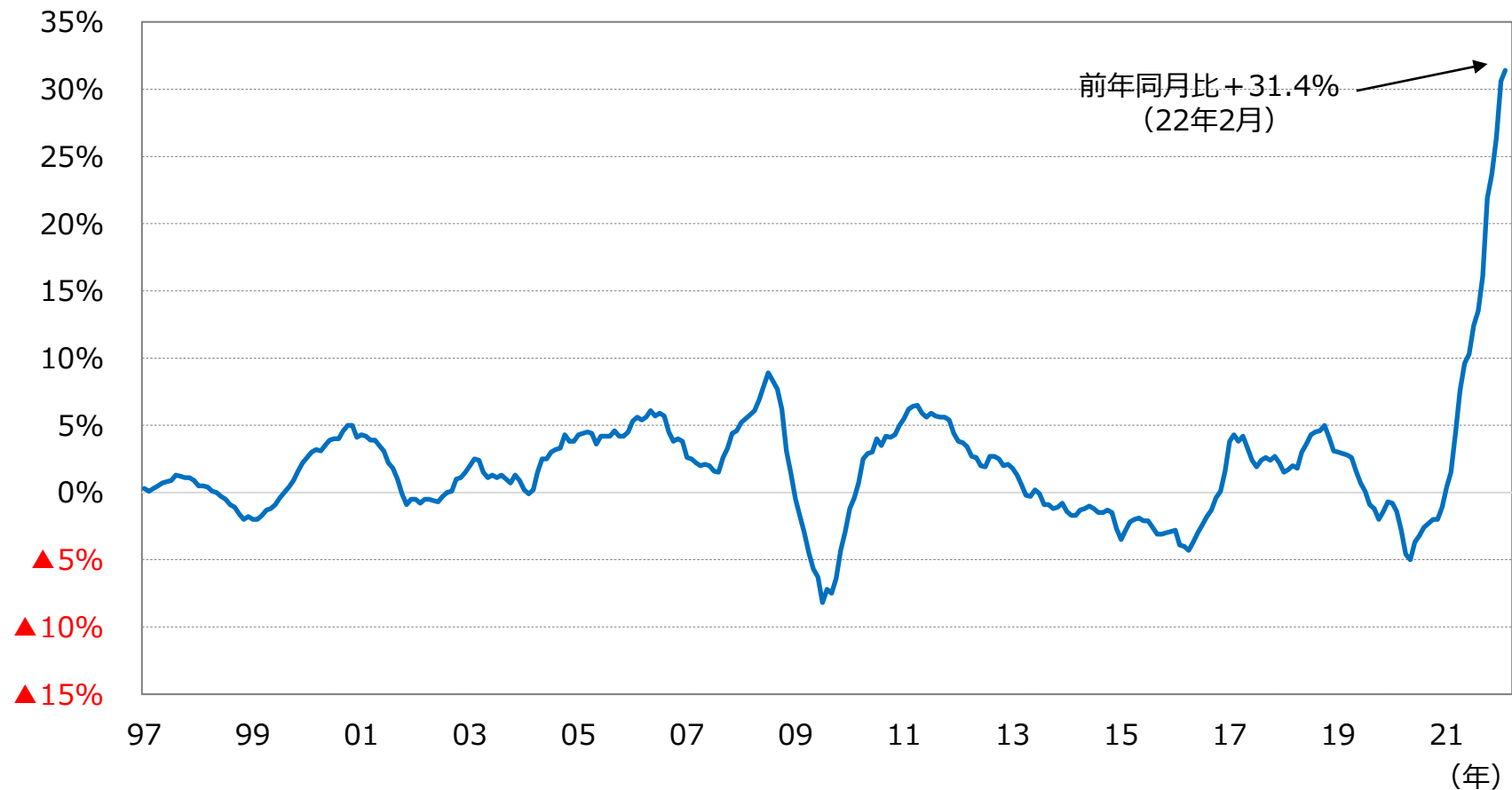
(資料) Eurostat, Bloomberg (3月17日公表)、英国統計局 (3月23日公表)
※ E U基準消費者物価指数 (HICP)

欧州 物価②

- 2月のユーロ圏の企業物価指数は、前年同月比+31.4%（先月：+30.6%）と、統計開始以来最高の伸び率を更新。

(前年同月比)

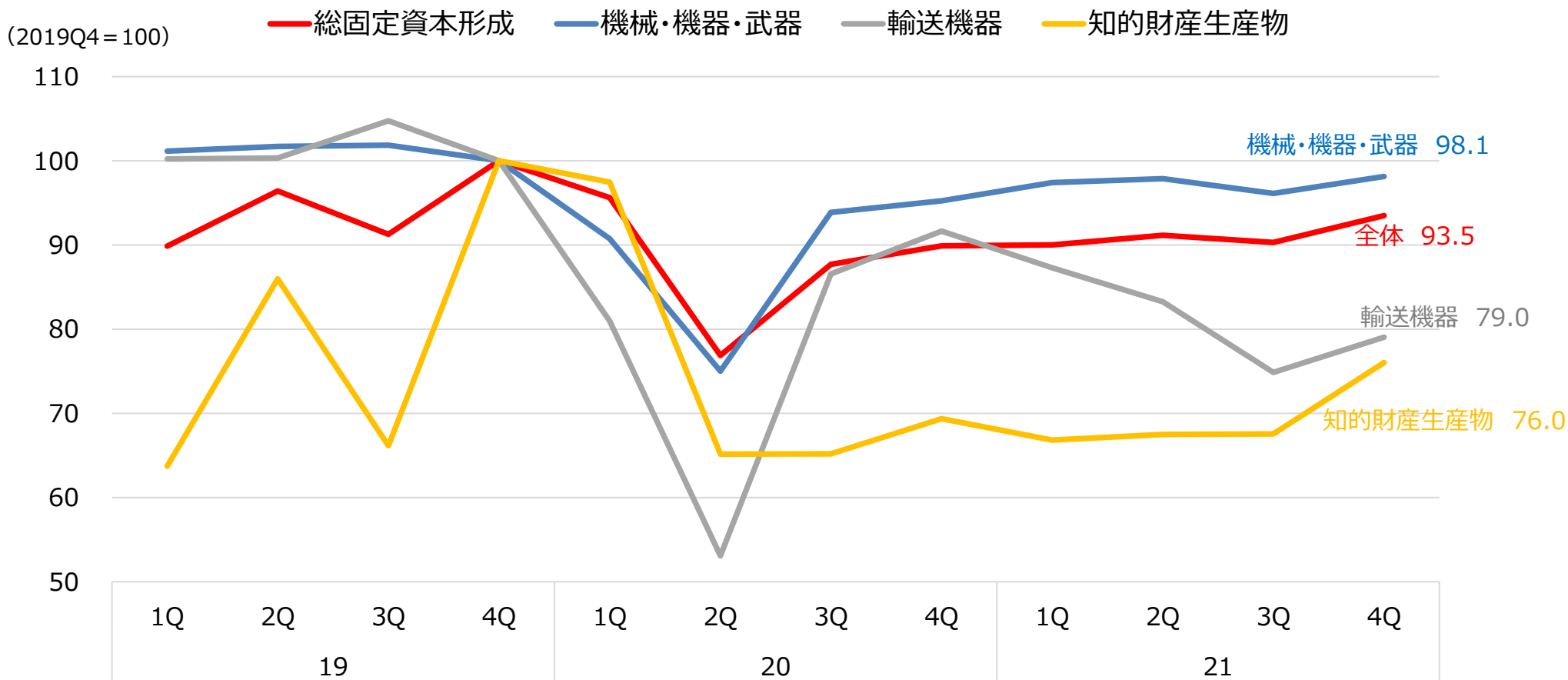
PPI



欧州 設備投資

- 2021年10-12月期の設備投資額を、コロナ禍前の2019年10-12月期と比較すると、全体では▲6.5%。
- 分野別では、機械・機器・武器システムは▲1.9%、輸送機器は▲21.0%、知的財産生産物は▲24.0%。

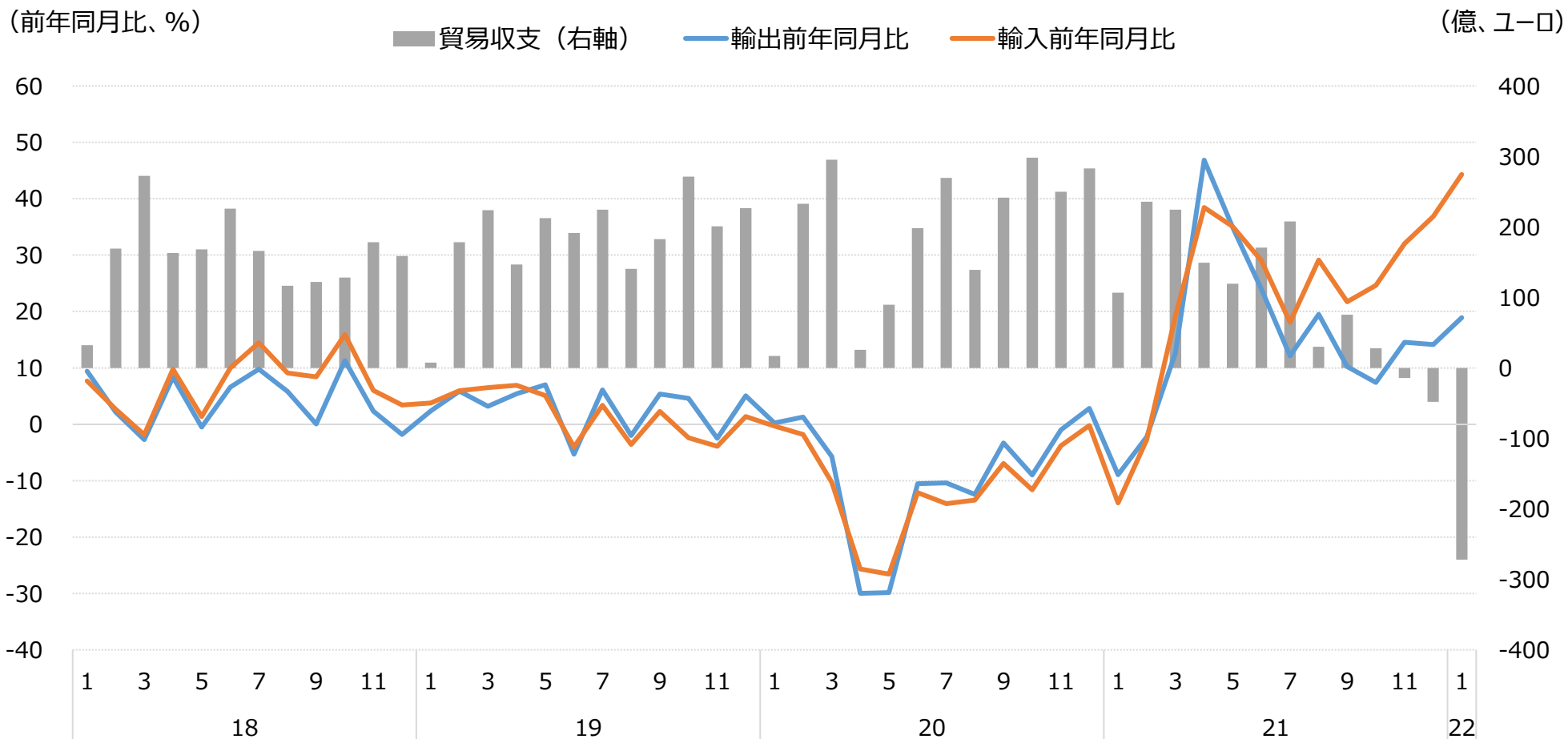
ユーロ圏設備投資



(資料) Eurostat (総固定資本形成及びその内訳、季節調整済)

欧州 輸出入

- 22年1月の輸出額は、前年同月比+18.9%、輸入額は、前年同月比+44.3%。
- 貿易収支は▲272億ユーロと赤字幅が拡大。前年同月は+107億ユーロの黒字だった。



(資料) Eurostat (3月18日公表)

欧州 雇用

- 2月のユーロ圏失業率は6.8%（先月：6.9%）と、先月から改善。過去最低を4か月連続更新。
- 国別では、スペイン（12.8%→12.6%）、イタリア（8.6%→8.5%）、フランス（7.5%→7.4%）、ドイツ（3.1%→3.1%）、英国（4.1%→3.9%）と、ドイツのみ横ばい推移で、他は揃って改善。
- ユーロ圏失業率は、2020年8、9月の8.6%をピークに、低下傾向が続いている。

欧州失業率の推移

